

2019 年度

情報公開

- 大学等における修学の支援に関する法律第 7 条第 1 項の確認に係る申請書
- 実務経験のある教員等による授業科目
- 客観的な指標の算出方法
- 卒業の認定に関する方針
- シラバス
- 学校関係者評価

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	奈良リハビリテーション専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
医療専門課程	理学療法学科	夜・通信	73 単位	9 単位	
		夜・通信			
		夜・通信			
		夜・通信			
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

入手方法：本校事務室への請求により一覧表の配布・閲覧可
ホームページにて公開 (www.nara-reha.ac.jp/johokokai.html)

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	奈良リハビリテーション専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公開
(www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
(備考) 2020年4月1日までに、複数の学外者である理事の選任を確実に実施する。			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	奈良リハビリテーション専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 1. 当該年度の授業計画の校長・副校長・学科長・主任・各学年担任による確認・評価 2. 教科担当決定・シラバス執筆依頼 3. 原稿提出 4. 新年度授業計画（シラバス）の各学年担任による原稿の確認 5. 授業計画原案を校長・副校長・学科長・主任に報告・確認 6. 完成・公表（当該年度の開講前の 3 月中）	
授業計画書の公表方法	本校事務室への請求により印刷物の配布・閲覧可 ホームページにて公開 (www.nara-reha.ac.jp/johokokai.html)

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

授業科目の評価については、シラバスに示している当該科目の「学生の到達目標」に基づいて、期末に試験を実施し評価する。学外における実習科目については、実習機関における評価を参考にして学校が評価に当たっている。

試験及び実習の評価は優(80点以上)・良(70点以上 80点未満)・可(60点以上 70点未満)・不可(60点未満)をもって表し、可以上を合格とする。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

公平性と透明性を確保し、統一した基準で、かつ国際的に通用する基準を用いるため、本校ではGPA (Grade Point Average) 制度を用いた成績評価を行います。修学指導や優秀な学生の表彰等に利用します。GPAは、以下の方法で算出します。

(a) GPAの対象となる授業科目

以下の適用除外科目以外の登録されたすべての授業科目をGPAの対象とします。

- ① 合格か不合格だけを判定する科目
- ② 編入学又は転入学した際の単位認定科目
- ③ 本学入学前に修得した単位認定科目
- ④ 他大学との単位互換等で修得した科目

(b) 成績評価の評定記号と付加するグレード・ポイント (GP)

成績評価は点数方式で行い、以下の評定記号 (優～可) の区分に応じたGPを算出します。

(c) GPAの算出方法

GPA値は、対象授業科目のうち、履修登録した科目について、それぞれの単位数にグレード・ポイント (4, 3, 2, 1, 0のいずれか) をかけ、その合計ポイント (GPS) を、それぞれの単位数の総和で割った数値です。

評価区分	評価記号	GP
100～90点	優	4
89～80点	優	3
79～70点	良	2
69～60点	可	1
59～0点	不可	0
単位認定	認定	なし

$$\frac{4.0 \times \text{「100～90点」の単位数} + 3.0 \times \text{「89～80点」の単位数} + 2.0 \times \text{「79～70点」の単位数} + 1.0 \times \text{「69～60点」の単位数}}{\text{受験済科目の総単位数(「不可」の単位数を含む)}}$$

*単位認定は、算出の対象としません。

*小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位までの数値で、成績通知書に記載します。
成績証明書……成績証明書発行時点におけるGPA値

客観的な指標の
算出方法の公表方法

ホームページにて公開
(www.nara-reha.ac.jp/johokokai.html)

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 1. 豊かな人間性を養い、有能にして広く社会の要請に応え得る理学療法士をする」との本校の教育理念及び教育目標に基づき、3 年制専門学校としての特長を生かし、最短の年限で、リハビリテーション医療を担う専門職としての社会に質の高い理学療法士を養成する。 2. 理学療法士として必要不可欠な知識や専門的技術及び技能の修得を図るとともに、コミュニケーション能力や協調性などを培うなか、基本的な理学療法については独立して実施できることを到達目標とし、即戦力となる実践力ある人材を育成するとともに、高度・多様化する保健医療福祉分野を担う探求心と向上心を備えた人材を育成し、広く社会の医療・福祉に寄与できる人材を育成する。 【学則 第五節 第 27 条】 (卒業の認定) ① 学校長は、所定の科目の単位認定を受けた者について、運営会議の議を経て卒業の認定を行う。 ② 卒業の認定を受けた者には、文部科学大臣による告示により専門士(医療専門課程)の称号を付与する。 ③ 学校長は、卒業を認定した者に対し、本校所定の卒業証書を授与する。 ④ 本校を卒業した者には、「理学療法士国家試験」の受験資格が与えられる。 理学療法士及び作業療法士法並びに理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則を遵守し、学則 第四節に定める教育課程（下記参照）における授業科目の単位を取得した者に対し、学則第五節卒業等並びに授業科目に関する規定に従い卒業を認定する。 【理学療法学科】 <table> <tr> <td>基 礎 分 野</td> <td>20 単位</td> </tr> <tr> <td>専門基礎分野</td> <td>31 単位</td> </tr> <tr> <td>専 門 分 野</td> <td>60 単位</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>111 単位</td> </tr> </table>		基 礎 分 野	20 単位	専門基礎分野	31 単位	専 門 分 野	60 単位	合 計	111 単位
基 礎 分 野	20 単位								
専門基礎分野	31 単位								
専 門 分 野	60 単位								
合 計	111 単位								
卒業の認定に関する 方針の公表方法	H31 学生便覧 (P. 6) 及びホームページにて公開 www.nara-reha.ac.jp/johokokai.html								

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	奈良リハビリテーション専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html
収支計算書又は損益計算書	www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html
財産目録	www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html
事業報告書	www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html
監事による監査報告（書）	www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士		
医療		医療専門課程	理学療法学科		○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類						
			講義	演習	実習	実験	実技		
3 年	昼	3210/111 単位時間／単位	2025 時間		1185 時間				
			単位時間／単位						
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数		専任教員数		兼任教員数		総教員数
120 人		104 人	0 人		8 人		38 人		46 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） （概要）
1. 当該年度の授業計画の校長・副校長・学科長・主任・各学年担任による確認・評価 2. 教科担当決定・シラバス執筆依頼 3. 原稿提出 4. 新年度授業計画（シラバス）の各学年担任による原稿の確認 5. 授業計画原案を校長・副校長・学科長・主任に報告・確認 6. 完成・公表（当該年度の開講前の3月中）
成績評価の基準・方法 （概要）
授業科目の評価については、シラバスに示している当該科目の「学生の到達目標」に基づいて、期末に試験を実施し評価する。学外における実習科目については、実習機関における評価を参考に学校が評価に当たっている。 試験及び実習の評価は優(80点以上)・良(70点以上80点未満)・可(60点以上70点未満)・不可(60点未満)をもって表し、可以上を合格とする。

卒業・進級の認定基準
(概要) 理学療法士及び作業療法士法並びに理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則を遵守し、学則 第四節に定める教育課程(理学療法学科にあつては基礎分野20単位、専門基礎分野31単位、専門分野60単位：合計111単位)における授業科目の単位を取得した者に対し、学則 第五節卒業等並びに授業科目に関する規定に従い卒業を認定する。
学修支援等
(概要) 前期・後期に実施している学生面談により、生活状況・学習状況を把握した上で指導している。 前学年を通じて、カリキュラム外で国家試験対策を講じている。 一年生：学習習慣の確立（早朝テスト、課題提出期限のチェック等） 二年生：臨床実習を想定した対策（実技を中心に） 三年生：国家試験対策、臨床に出る直前に備えておくべき理学療法士として心構え・知識・技術を提示している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
12人 (100%)	0人 (%)	12人 (100%)	0人 (%)
(主な就職、業界等) 奈良県・大阪府の病院			
(就職指導内容) ビジネスマナー研修の受講・就職先施設の紹介・模擬面接・履歴書添削			
(主な学修成果（資格・検定等）) 理学療法士国家試験受験資格			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
94人	4人	5.3%
(中途退学の主な理由) 学業への不安・志望動機の変化による進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 保護者を含めた面談やカウンセリング		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
理学療法 学科	300,000 円	760,000 円	500,000 円	※その他の内訳 施設設備充実費 200,000 円 実習教材費 300,000 円
	円	円	円	
	円	円	円	
	円	円	円	
修学支援 (任意記載事項)				
● 特別学費支援制度 (留年生が継続的に登校して勉学に励むことを条件に、後期の学費を減免する制度) ● 家族割引制度 (二親等以内の親族が関連校を卒業、もしくは在学している場合、入学金の一部を免除する制度)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
ホームページにて公開 www.nara-reha.ac.jp/pdf/jikot-h30.pdf		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
自己評価結果の客観性・透明性を高めるため、学外関係者による「学校関係者評価委員会」を設置し、学校関係者評価を実施する。 ○主な評価項目：教育、施設、学生サービスなど。 ○評価委員の定数：5名以上 ○評価委員の選出区分：卒業生、企業関係者、高校関係者、地域住民、教育関連有識者など ○評価結果の活用方法：学校運営等の改善に活用する。評価結果ならびに改善策の公表については4月を目途にホームページ (www.nara-reha.ac.jp/johokokai.html) で公表予定。また学校関係者評価の責任者は学校関係者評価委員会の委員長とする。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
学校関係者評価を確実に実施し、2020年度よりその結果を公表する。		
学校関係者評価結果の公表方法		
2020年度から評価を確実に公表する。		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) www.nara-reha.ac.jp
--

実務経験のある教員等による授業科目一覧表(理学療法学科)

分野	科目	実務教員 科目	指定 単位数	実施時間			1学年		2学年		3学年	
				講義 演習	実験 実習 実技	単位数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							時間	時間	時間	時間	時間	時間
基礎分野	教 育 学	○	(教育内容)	30		2	30					
	心 理 学	○	科学的思考 の基盤	30		2	30					
	生 化 学	○		30		2	30					
	統 計 学	○	人間と 生活	30		2		30				
	英 語 I	○		30		2	30					
	英 語 II	○		30		2		30				
	基礎分野計		14単位	180H		12単位	120H	60H				
専門基礎分野	生 理 学 I	○	人体の構造 と機能及び 心身の発達	60		2	60					
	基 礎 運 動 学 I	○		60		2		60				
	基 礎 運 動 学 II	○		60		2			60			
	人 間 発 達 学	○		15		1	15					
	小 計		12単位	195H		7単位	75H	60H	60H			
	医 学 概 論	○	疾病と障が いの成り立 ち及び回復 過程の促進	15		1		15				
	内 科 学	○		60		2			30	30		
	神 経 科 学	○		45		2			30	15		
	外 科 学 総 論	○		15		1				15		
	整 形 外 科 学	○		60		2			30	30		
	精 神 医 学	○		30		1			30			
	小 児 科 学	○		15		1			15			
	臨 床 心 理 学	○		30		1			30			
	小 計		12単位	270H		11単位		15H	165H	90H		
	リハビリテーション I	○	(教育内容) 保健医療福祉 とリハビリ テーションの 理念	15		1		15				
	リハビリテーション II	○		15		1				15		
	保 健 医 療 福 祉 関 係 論	○		45		2					15	30
	小 計		2単位	75H		4単位		15H		15H	15H	30H
	専門基礎分野計		26単位	540H		22単位	75H	90H	225H	105H	15H	30H

実務経験のある教員等による授業科目一覧表(理学療法学科)

分野	科目	実務教員 科目	指定 単位数	実施時間			1学年		2学年		3学年	
				講義 演習	実験 実習 実技	単位数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							時間	時間	時間	時間	時間	時間
専門分野	理 学 療 法 概 論	○	(教育内容)	30		2	30					
	臨 床 運 動 学	○		60		2			30	30		
	動 作 分 析 学Ⅰ	○		30		1			30			
	動 作 分 析 学Ⅱ	○	基礎理学 療法学	30		1					30	
	理学療法障害学Ⅰ	○		15		1		15				
	理学療法障害学Ⅱ	○		45		1					30	15
	小 計		6単位	210H		8単位	30H	15H	60H	30H	60H	15H
	理学療法評価総論Ⅰ	○	(教育内容)		60	2		60				
	理学療法評価総論Ⅱ	○			60	2			60			
	理学療法評価各論Ⅰ	○	理学療法評 価学		30	1			30			
	理学療法評価各論Ⅱ	○			30	1				30		
	小 計		5単位		180H	6単位		60H	90H	30H		
	基 礎 運 動 療 法 学	○	(教育内容)		60	2	30	30				
	運 動 療 法 学Ⅰ	○		30		1		30				
	運 動 療 法 学Ⅱ	○			60	2		60				
	運 動 療 法 学Ⅲ	○			30	1			30			
	物 理 療 法 学Ⅰ	○		30		1			30			
	物 理 療 法 学Ⅱ	○		30		1				30		
	義 肢 学	○		45		1				45		
	装 具 学	○		30		1				30		
	日常生活活動学総論	○		30		1			30			
	日常生活活動学各論	○		30		1				30		
	理学療法治療各論Ⅰ	○		30		1			30			
	理学療法治療各論Ⅱ	○	理学療法 治療学	30		1				30		
	理学療法治療各論Ⅲ	○		30		1			30			
	理学療法治療各論Ⅳ	○		30		1			30			
	理学療法治療各論Ⅴ	○		30		1				30		
	理学療法治療各論Ⅵ	○		30		1				30		
	理学療法治療各論Ⅶ	○		30		1					30	
	理学療法治療各論Ⅷ	○		30		1				30		
	理学療法治療演習	○		30		1				30		
	小 計		20単位	495H	150H	21単位	30H	120H	180H	285H	30H	
	生 活 環 境 論	○	(教育内容) 地域理学 療法学	60		2				60		
	地 域 理 学 療 法 学	○		30		1					30	
	地域サービス技術論	○		30		1					30	
	小 計		4単位	120H		4単位				60H	60H	
	専門分野計		53単位	825H	330H	39単位	60H	195H	330H	405H	150H	15H
	合計			1545H	330H	73単位	255H	345H	555H	510H	165H	45H

客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要について

本校では、公平性と透明性を確保し、統一した基準で、かつ国際的に通用する基準を用いるため、GPA（Grade Point Average）制度を用いた成績評価を行い、修学指導や優秀な学生の表彰等に利用します。

GPA は、以下の方法で算出します。

(a) GPA の対象となる授業科目

以下の適用除外科目以外の登録されたすべての授業科目を GPA の対象とします。

- ① 合格か不合格かだけを判定する科目
- ② 編入学又は転入学した際の単位認定科目
- ③ 本学入学前に修得した単位認定科目
- ④ 他大学との単位互換等で修得した科目

(b) 成績評価の評定記号と付加するグレード・ポイント（GP）

成績評価は点数方式で行い、以下の評定記号（優～可）の区分に応じた GP を算出します。

(c) GPA の算出方法

GPA 値は、対象授業科目のうち、履修登録した科目について、それぞれの単位数にグレード・ポイント（4, 3, 2, 1, 0 のいずれか）をかけ、その合計ポイント（GPS）を、それぞれの単位数の総和で割った数値です。

評価区分	評価記号	GP
100～ 90 点	優	4
89 ～ 80 点	優	3
79 ～ 70 点	良	2
69 ～ 60 点	可	1
59 ～ 0 点	不可	0
単位認定	認定	なし

$$(4.0 \times \text{「100～ 90 点」の単位数} + 3.0 \times \text{「89 ～ 80 点」の単位数} + 2.0 \times \text{「79 ～ 70 点」の単位数} + 1.0 \times \text{「69 ～ 60 点」の単位数}) / (\text{受験済科目の総単位数 (「不可」の単位数を含む)})$$

* 単位認定は、算出の対象としません。

* 小数点第 3 位を四捨五入し、小数点第 2 位までの数値で、成績通知書に記載します。

成績証明書…… 成績証明書発行時点における GPA 値

以上

卒業の認定に関する方針について

本校のディプロマポリシー

1. 「豊かな人間性を養い、有能にして広く社会の要請に応え得る理学療法士を養成する」との本校の教育理念及び教育目標に基づき、3年制専門学校としての特長を生かし、最短の年限で、リハビリテーション医療を担う専門職としての社会に質の高い理学療法士を養成する。

2. 理学療法士として必要不可欠な知識や専門的技術及び技能の修得を図るとともに、コミュニケーション能力や協調性などを培うなか、基本的な理学療法については独立して実施できることを到達目標とし、即戦力となる実践力ある人材を育成するとともに、高度・多様化する保健医療福祉分野を担う探求心と向上心を備えた人材を育成し、広く社会の医療・福祉に寄与できる人材を育成する。

卒業の認定について

【学則 第五節 第27条】

- ① 学校長は、所定の科目の単位認定を受けた者について、運営会議の議を経て卒業の認定を行う。
- ② 卒業の認定を受けた者には、文部科学大臣による告示により専門士(医療専門課程)の称号を付与する。
- ③ 学校長は、卒業を認定した者に対し、本校所定の卒業証書を授与する。
- ④ 本校を卒業した者には、「理学療法士国家試験」の受験資格が与えられる。

理学療法士及び作業療法士法並びに理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則を遵守し、学則 第四節に定める教育課程（下記参照）における授業科目の単位を取得した者に対し、学則第五節卒業等並びに授業科目に関する規定に従い卒業を認定する。

【理学療法学科】

基 礎 分 野	20 単位
専門基礎分野	31 単位
専 門 分 野	60 単位
合 計	111 単位

以上

平成 31 年度
講義シラバス

奈良リハビリテーション専門学校



目次

【基礎分野】

教育学	 1
心理学	 2
生化学	 3
物理学	 4
統計学	 5
情報処理	 6
人間工学	 7
英語Ⅰ	 8
英語Ⅱ	 9
保健体育	 10
コミュニケーション学	 11

【専門基礎分野】

※解剖学Ⅰ	 13
※解剖学Ⅱ	 15
生理学Ⅰ	 17
生理学Ⅱ	 18
基礎運動学Ⅰ	 21
基礎運動学Ⅱ	 22
人間発達学	 23
病理学	 24
医学概論	 25
※内科学	 26
※神経科学	 27
外科学総論	 29
※整形外科科学	 30
精神医学	 31
小児科学	 32
臨床心理学	 33
リハビリテーションⅠ	 34
リハビリテーションⅡ	 35
保健医療福祉関係論	 36

【専門分野】

理学療法概論	 37
理学療法概論実習	 38

※臨床運動学	 39
動作分析学Ⅰ	 40
動作分析学Ⅱ	 41
理学療法障害学Ⅰ	 42
※理学療法障害学Ⅱ	 43
理学療法研究概論	 44
理学療法評価総論Ⅰ	 45
理学療法評価総論Ⅱ	 47
理学療法評価各論Ⅰ	 48
理学療法評価各論Ⅱ	 49
※基礎運動療法学	 50
運動療法学Ⅰ	 51
運動療法学Ⅱ	 52
運動療法学Ⅲ	 54
物理療法学Ⅰ	 56
物理療法学Ⅱ	 57
義肢学	 58
装具学	 59
日常生活活動学総論	 60
日常生活活動学各論	 61
理学療法治療各論Ⅰ	 62
理学療法治療各論Ⅱ	 63
理学療法治療各論Ⅲ	 64
理学療法治療各論Ⅳ	 65
理学療法治療各論Ⅴ	 66
理学療法治療各論Ⅵ	 67
理学療法治療各論Ⅶ	 68
理学療法治療各論Ⅷ	 69
理学療法治療演習	 70
生活環境論	 71
地域理学療法学	 72
地域サービス技術論	 73
※臨床実習Ⅰ	 74
※臨床実習Ⅱ	 75
卒業課題	 76

※：通年科目

【科目名】

教育学

平成31年度

分野	基礎	配当年次	1年	開講期間	前期	単位数	2
担当	浅岡 雅子	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

現在の教育問題や動向について学ぶとともに、理学療法士の患者指導という観点から教育観を探究する。

①教育観を理学療法士の視点で述べることができる

②理学療法と患者教育の関係性を説明ができる

回数	講義内容	備考
1	オリエンテーション	
2	プレゼンテーションについて	
3	人間の成長と発達と教育Ⅰ	
4	人間の成長と発達と教育Ⅱ	
5	コーチングスキルⅠ	
6	コーチングスキルⅡ	
7	コーチングスキルⅢ	
8	コーチングスキルⅣ	
9	障害と特別支援教育	
10	生涯学習時代と成人の学び	
11	学習指導	
12	グループ発表	
13	グループ発表	
14	グループ発表	
15	まとめ	

【成績評価方法】

①平常点、②筆記試験

※素点が6割以上で単位修得。

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
資料配布		

【科目名】

心理学

平成 31 年度

分野	基礎	配当年次	1 年	開講期間	前期	単位数	2
担当	池本 真知子	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

医療人として患者の苦しみや悩みを理解することは重要である。こころのはたらきを科学的に探究し、理学療法に必要な心理学の基本的事項を学習する。

- ①対人援助に必要な心理学的技法を説明できる
- ②心理学的側面から見た学習の成立について説明できる
- ③ライフステージごとの発達の特徴を説明できる

回数	講義内容	備考
1	心理学とは、心理学と対人援助、リハビリテーションについて	
2	感覚と知覚、もののとらえ方のしくみを知る	
3	認知1、記憶のメカニズム、記憶障害	
4	認知2、言語・思考のメカニズム、言語障害	
5	学習1、生得的行動と習得的行動、古典的条件付け	
6	学習2、オペラント条件づけ、社会的学習	
7	動機づけ、生理的動機と社会的動機	
8	感情、感情のメカニズム、感情の理論、感情のシグナル	
9	パーソナリティ、類型論と特性論、知能	
10	発達1、乳幼児・児童期、発達障害	
11	発達2、青年期から老人期、認知症	
12	社会と集団、対人知覚、コミュニケーション、対人関係、集団とリーダーシップ	
13	健康1、ストレスとは、患者の心理、医療職の心理	
14	健康2、ストレスとつきあう、ストレス・マネジメント・バーンアウト	
15	臨床心理学、心理療法とカウンセリング、精神分析、行動療法、認知療法	

【成績評価方法】

①平常点、②筆記試験

※素点が6割以上で単位修得。

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
資料配布		

【科目名】

生化学

平成31年度

分野	基礎	配当年次	1年	開講期間	前期	単位数	2
担当	宮岡 朋子	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

理学療法士として、内臓系疾患の患者に対する運動指針や運動処方に必要なエネルギー産生機構や糖質・脂質・蛋白質代謝、血液性状の変化等の基礎的な生化学の知識を学習する。

①エネルギー機構について生化学的に説明できる

②代謝性疾患と代謝異常について説明できる

回数	講義内容	備考
1	生化学を学ぶための基礎知識	
2	糖質・脂質	
3	タンパク質	
4	核酸	
5	ホルモン	
6	酵素	
7	ビタミン	
8	糖代謝	
9	脂質代謝	
10	タンパク質代謝	
11	核酸代謝、ポリフィリン代謝	
12	血液と尿	
13	遺伝情報	
14	代謝異常	
15	まとめ	

【成績評価方法】

①平常点、②筆記試験

※素点が6割以上で単位修得。

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
系統看護学講座 専門基礎2 人体の構造と機能2 生化学 第13版	三輪一智ほか	医学書院

【科目名】

物理学

平成 31 年度

分野	基礎	配当年次	1 年	開講期間	前期	単位数	2
担当	大又 巧也	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

熱、力学、光、音等理学療法に必要な物理的知識を学習する。

①理学療法に应用される物理的エネルギーについて説明できる

②身体運動に適応される物理的法則について説明できる

回数	講義内容	備考
1	物理学で学習すること	
2	物理量とその表し方	
3	物理学で使うグラフと関数	
4	いろいろな運動	
5	さまざまな力	
6	流体	
7	力のつり合いと運動の法則	
8	物体の重心と回転運動	
9	運動量、仕事、エネルギー	
10	ベルヌーイの定理	
11	温度と熱	
12	状態図	
13	波の運動	
14	音と光	
15	電気と力	

【成績評価方法】

①平常点、②筆記試験【持ち込み可：教科書、プリント、ノート】

※素点が 6 割以上で単位修得。

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
PT・OT ゼロからの物理学		羊土社

【科目名】

統計学

平成31年度

分野	基礎	配当年次	1年	開講期間	後期	単位数	2
担当	治部 哲也	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

医療に必要な有意差検定や相関分析、分散分析等の統計手法を学習する。

①統計用語について説明できる

②代表的な統計手法（平均値の差の検定、分散分析、相関、回帰）の結果の読み方について説明できる

③サンプルサイズについて説明できる

回数	講義内容	備考
1	統計学のスタート、データの種類と尺度、データの収集	
2	統計処理の実際	
3	集団の特徴をとらえる	
4	PCを使用した代表値の算出、集団の特徴を分布曲線で表す	
5	正規分布における個々のデータの位置を知る、正規分布の基準化（応用）、推測統計学（母集団と標本）	
6	推測統計学（標本平均の分布）、統計的仮説検定1-①	
7	統計的仮説検定1-②	
8	区間推定法①	
9	区間推定法②	
10	PCを使用した対応のない2つの平均の差の検定	
11	統計的仮説検定2-②	
12	PCを使用した対応のある2つの平均の差の検定	
13	質的データの分析①	
14	2つの変数の関係を調べる	
15	研究の流れに沿った分析の実践、まとめ	

【成績評価方法】

①筆記試験

※素点が6割以上で単位修得

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
15 レクチャーシリーズ リハビリテーション統計学	石川 朗	中山書店

【科目名】

情報処理

平成 31 年度

分野	基礎	配当年次	1 年	開講期間	前期	単位数	1
担当	大又 巧也	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

基本的なワープロ操作や表計算等の使い方を演習形式で学習する。

- ①コンピュータを使い文章を作成できる
- ②コンピュータを使い表計算ができる
- ③コンピュータを使いパワーポイントで発表ができる

回数	講義内容	備考
1	コンピュータの基本操作、文章入力	
2	Word①、文章入力とページ設定	
3	Word②、文字書式と段落書式	
4	Word③、ビジネス文書の作成	
5	Word④、グラフィカルな文章の作成	
6	Word⑤、レポートの作成	
7	Power point①、基本的なスライドの作成	
8	Power point②、見栄えの良いスライドの作成	
9	Excel①、数式を使った表作成	
10	Excel②、関数を使った表作成(1)	
11	Excel③、関数を使った表作成(2)	
12	Excel④、グラフ作成	
13	PowerPoint③、グループ発表	
14	PowerPoint④、グループ発表	
15	総合的な演習課題	

【成績評価方法】

①平常点、②実技試験【持ちこみ可：教科書、プリント、ノート】

※素点が 6 割以上で単位修得。

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
医療従事者のための情報リテラシー 第2班	森由紀・中村健壽	日経 BP 社

【科目名】

人間工学

平成 31 年度

分野	基礎	配当年次	1 年	開講期間	前期	単位数	2
担当	上田 秀治	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

工学的な視点から人間の姿勢や動作を観察できるよう学習する。

- ①人間の姿勢や動作を工学的な視点で説明できる
- ②ユニバーサルデザインについて説明できる
- ③ユニバーサルデザインに関係する法制度について説明できる

回数	講義内容	備考
1	人間工学とは	
2	人間の重心①(座標を用いた重心位置の決定方法)	
3	人間の重心②(簡易人体モデルを用いた重心位置の算出)	
4	人間の重心③(各体分節の重心決定と身体全体の重心位置の算出)	
5	支持基底面と重心(支持基底面と重心の関係)	
6	ボディメカニクス①(ニュートンの運動の法則・スカラー・ベクトル)	
7	ボディメカニクス②(ベクトルの合成と分解)	
8	ボディメカニクス③(練習問題)	
9	トルクとてこ①(回転運動・てこの原理)	
10	トルクとてこ②(テコの算出とつりあい)	
11	トルクとてこ③(身体のでこ・練習問題)	
12	総合演習	
13	ユニバーサルデザイン①(バリアフリーとユニバーサルデザイン)	
14	ユニバーサルデザイン②(日常生活におけるユニバーサルデザイン)	
15	ユニバーサルデザイン③(ディスカッション)	

【成績評価方法】

①平常点、②実技試験

※素点が 6 割以上で単位修得。

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
資料配布(準備物:定規)		

【科目名】

英語 I

平成 31 年度

分野	基礎	配当年次	1 年	開講期間	前期	単位数	2
担当	下田 一次	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

一般教養および専門領域において、必要な基礎的理解力を身につけることを目標に教授する。

①英語を用いた基礎的なコミュニケーションをとることができる

②医学英論文を読むための前段階として、基礎的な英文書を読むことができる

回数	講義内容	備考
1	講義のすすめ方、英語について、プリント教材 1・2	
2	Unit1: 基本コミュニケーション、プリント教材 3、母音の発音	
3	Unit1: 基本コミュニケーション、プリント教材 4、母音の発音	
4	Unit2: あいさつと自己紹介、プリント教材 5、短母音	
5	Unit2: あいさつと自己紹介、プリント教材 6、短母音	
6	Unit3: 訪問予約、プリント教材 7、短母音	
7	Unit3: 訪問予約、プリント教材 8、短母音	
8	Unit4: 道順、プリント教材 9、長母音	
9	Unit4: 道順、プリント教材 10、半母音	
10	Unit5: 入浴、プリント教材 11、半母音	
11	Unit5: 入浴、プリント教材 12、クロスワード	
12	Unit6: 打ち合わせ・連絡、プリント教材 13、子音	
13	Unit6: 打ち合わせ・連絡、プリント教材 14、子音	
14	Unit7: チームワーク、プリント教材 15、ギリシャ神話の神	
15	Unit7: チームワーク、プリント教材 16、ギリシャ神話の神	

【成績評価方法】

①平常点、②実技試験【持ち込み可能なもの: 紙の辞書（電子辞書は不可）】

※素点が 6 割以上で単位修得。

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
介護・看護・リハビリ マナーとホスピタリティの英語 III	古閑博美 他	弓プレス

【科目名】

英語Ⅱ

平成31年度

分野	基礎	配当年次	1年	開講期間	後期	単位数	2
担当	下田一次、小林功	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

一般教養及び専門領域において、必要な基礎的理解力を身につけることを目標に教授する。

①医学英論文の渉猟方法を説明できる

②医学英論文の要点を説明できる

回数	講義内容	備考
1	UNIT 8 症状を表す表現 前置詞と再帰代名詞	下田
2	UNIT 8 手足の動作、服の脱着 ギリシャ神話の神	下田
3	UNIT 8 基本動作 ギリシャ神話	下田
4	UNIT 9 It~Of①to~構文 テキストABC	下田
5	UNIT 9 テキストDEF	下田
6	UNIT 10 テキスト 色彩から派生した語	下田
7	UNIT 10 テキスト 色彩から派生した語	下田
8	UNIT 11 テキストABC 色彩から派生した語	下田
9	UNIT 11 リラクセーション	下田
10	UNIT 12 ExerciseABC	下田
11	UNIT 12 ExerciseDE	小林
12	UNIT 13 ExerciseABC	小林
13	UNIT 13 ExerciseDEF	小林
14	UNIT 14 ExerciseABC	小林
15	UNIT 14 ExerciseDE	小林

【成績評価方法】

【下田講師分】筆記試験（持ち込み可能なもの：紙の辞書、電子辞書は不可）

【小林教員分】

※試験は担当ごとに実施し、それぞれ6割以上で単位修得。再試験は担当ごとに実施。評定は下田講師6割、小林教員4割。

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
介護・看護・リハビリ マナーとホスピタリティの英語 Ⅲ	古閑博美・土谷宣子・北川宣子	弓プレス

【科目名】

保健体育

平成 31 年度

分野	基礎	配当年次	1 年	開講期間	前期	単位数	1
担当	山口典孝、森山琢磨	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

運動生理学、体育生理学の観点から、健康と体育を科学的に捉える能力を育成することを目標に学習する。

①運動が健康に与える影響について説明することができる

②各種スポーツの障害特性とその予防について述べるができる

回数	講義内容	備考
1	オリエンテーション：自己紹介、ドッジボール	森山
2	ドッジボール：準備体操、ドッジボール	山口
3	バレーボール：バレーボール	森山
4	バレーボール：ランニング、準備体操、バレーボール	森山
5	バレーボール：ランニング、準備体操、バレーボール	森山
6	バスケットボール：ランニング、準備体操、バスケットボール	山口
7	バスケットボール：ランニング、準備体操、バスケットボール	森山
8	バスケットボール：ランニング、準備体操、バスケットボール	山口
9	バスケットボール：ランニング、準備体操、バスケットボール	森山
10	バレーボール：ランニング、準備体操、バレーボール	森山
11	サッカー：ランニング、準備体操、サッカー	山口
12	フットサル：ランニング、準備体操、フットサル	森山
13	講義：スポーツ栄養学	山口
14	バレーボール：ランニング、準備体操、バレーボール	山口
15	サッカー、ドッジボール：ランニング、準備体操、サッカー、ドッジボール	山口

【成績評価方法】

①平常点、②出席点、③実技試験、④その他：出席状況

※①～④合算を素点とし、その 6 割以上で単位修得

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
なし		

【科目名】

コミュニケーション学①

平成31年度

分野	基礎	配当年次	1年	開講期間	前期	単位数	2
担当	桶田勝文、太田むつ子 森川あやこ	時間数	30/45	回数	15/23	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

バーバル・ノンバーバルな手段により、良好な対人関係を築くことができるよう学習する。

- ①基礎的なバーバルコミュニケーションを行うことができる
- ②基礎的な医療面接を実施することができる
- ③感染予防について説明できる

回数	講義内容	備考
1	コミュニケーションスキル 心をつなぎ・絆を結ぶコミュニケーション	森川
2	交流（お互いを知る、つながる 10 箇条）	太田
3	チームビルディング（合意）	桶田
4	好感度を上げるコミュニケーション①（非言語情報）	桶田
5	話し方、文章読解	太田
6	好感度を上げるコミュニケーション②（言語情報）	桶田
7	聴く力「ロールプレイとオーディエンスカ」	桶田
8	受容的態度 ラポールの形成	桶田
9	感染管理、標準予防策、手洗いの実施	桶田
10	医療面接①、概要	桶田
11	医療面接②、模擬患者に対して実施	桶田
12	医療面接③、模擬患者に対して実施	桶田
13	問題解決①、情報収集の方法	桶田
14	問題解決②、情報収集の方法	桶田
15	チームで問題解決	桶田

【成績評価方法】

①筆記試験②実技試験

※合算した素点が6割以上で、かつコミュニケーション学②の素点も6割以上で単位修得。

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
資料配布		

【科目名】						平成 31 年度	
コミュニケーション学－②（手話）							
分野	基礎	配当年次	1 年	開講期間	前期	単位数	2
担当	布上 佳世	時間数	15/45	回数	8/23	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
バーバル・ノンバーバルな手段により、良好な対人関係を築くことができるよう学習する。							
①手話で自己紹介を実施できる							
②手話で基礎的なコミュニケーションをとることができる							
回数	講義内容						備考
1	手話の基礎知識 実技：身振り、指文字						
2	聴覚障がい者のコミュニケーションについて 実技：自己紹介、数字						
3	ろう教育の歴史とろうあ運動の流れ 会話						
4	ろう者の講演 「聴覚障がい者の生活」						
5	聴覚障がい者の基礎知識 会話						
6	聴覚障がい者への合理的配慮 会話						
7	聞こえない人と交流してみましょう（5名）						
8	手話通訳派遣制度 まとめ						
【成績評価方法】							
①平常点、②講義の中で提示							
※素点が 6 割以上で、かつコミュニケーション学①の素点が 6 割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
手話を学ぼう 手話で話そう				社会福祉法人全国手話研修センター			

【科目名】

解剖学Ⅰ－①（前期）

平成31年度

分野	専門基礎	配当年次	1年	開講期間	前後期	単位数	4
担当	奥山 隆三	時間数	60/120	回数	30/60	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

解剖学は解剖学Ⅰ、Ⅱで構成される。骨・関節・神経・筋・内臓などの人体の構造を中心に、各器官及び組織の形態について解剖学実習も併せて学習する。

①骨の構造と機能について説明できる

②関節の構造と機能について説明できる

回数	講義内容	回数	講義内容
1	解剖学総論①	16	骨と骨との連結
2	解剖学総論②	17	滑膜性関節の構造と分類
3	骨の分類と構造①	18	頭蓋の骨と連結①
4	骨の分類と構造②	19	頭蓋の骨と連結②
5	頭部の骨	20	脊柱の関節と靭帯①
6	脊柱の骨	21	脊柱の関節と靭帯②
7	胸部の骨	22	上肢の関節と靭帯①
8	軸骨格（体幹）総まとめ	23	上肢の関節と靭帯②
9	上肢の骨（肩甲骨・上腕骨）	24	胸部の関節と靭帯①
10	上肢の骨（前腕部・手の骨）	25	胸部の関節と靭帯②
11	上肢の骨 総まとめ	26	手指の関節と靭帯
12	下肢の骨（寛骨・骨盤）	27	下肢の関節と靭帯①
13	下肢の骨（大腿骨・下腿骨）	28	下肢の関節と靭帯②
14	下肢の骨（足の骨）	29	下肢の関節と靭帯③
15	下肢の骨 総まとめ	30	関節と靭帯 総まとめ

【成績評価方法】

①平常点、②筆記試験

※素点が6割以上で単位修得

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
PT・OT・STのための解剖学	渡辺正仁	廣川書店

【科目名】

解剖学Ⅰ－②（後期）

平成31年度

分野	専門基礎	配当年次	1年	開講期間	前後期	単位数	4
担当	奥山 隆三	時間数	60/120	回数	30/60	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

解剖学は解剖学Ⅰ、Ⅱで構成される。骨・関節・神経・筋・内臓などの人体の構造を中心に、各器官及び組織の形態について解剖学実習も併せて学習する。

①骨格筋の構造と機能について説明できる

②神経（末梢・中枢神経系）の構造と機能について説明できる

回数	講義内容	回数	講義内容
31	骨格筋の構造と作用①	46	神経の構造と機能①
32	骨格筋の構造と作用②	47	神経の構造と機能②
33	体幹の筋①頭部の筋	48	中枢神経①脊髄
34	体幹の筋②頸部の筋	49	中枢神経②大脳皮質・髄質
35	体幹の筋③背部の筋	50	中枢神経③大脳基底核
36	体幹の筋④胸部・腹部の筋	51	中枢神経④間脳
37	体幹の筋 総まとめ	52	中枢神経⑤脳幹
38	上肢の筋①上肢帯の筋	53	中枢神経⑥小脳
39	上肢の筋②上腕・前腕の筋	54	末梢神経①脊髄神経
40	上肢の筋③手の筋	55	末梢神経②脊髄神経
41	下肢の筋①下肢帯の筋	56	末梢神経③脳神経
42	下肢の筋②大腿の筋	57	末梢神経④自律神経
43	下肢の筋③下腿の筋	58	神経の伝導路①上行性
44	上肢・下肢の筋 総まとめ	59	神経の伝導路②下行性
45	筋肉理解度確認テスト（中間試験）	60	神経 総まとめ

【成績評価方法】

①平常点、②筆記試験

※素点が6割以上で単位修得

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
PT・OT・STのための解剖学	渡辺正仁	廣川書店

【科目名】

解剖学Ⅱ－①（前期）

平成31年度

分野	専門基礎	配当年次	1年	開講期間	前後期	単位数	2
担当	前田 裕子	時間数	30/60	回数	15/30	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

解剖学は解剖学Ⅰ、Ⅱで構成される。骨・関節・神経・筋・内臓などの人体の構造を中心に、各器官及び組織の形態について解剖学実習も併せて学習する。

①循環器（心臓・血管など）の構造と機能について説明できる

②消化器（胃・腸・肝臓など）の構造と機能について説明できる

回数	講義内容	備考
1	驚異の人体機能：DVDを見て体全体の造りを見る	
2	細胞構造：人体の区分～細胞の構造（～細胞膜）	
3	組織：細胞分裂、上皮・結合組織	
4	心臓：総論（軟骨・筋） 心臓の構造（～弁）	
5	心臓・血管：冠状循環、心膜、刺激伝導系、血管（動脈弓）	
6	動脈：脳、上肢、胸部、腹部の動脈	
7	動脈・静脈：腹大動脈壁側枝～ 脳の静脈	
8	静脈・胎児の循環：上肢の静脈～下肢の静脈、胎児の静脈	
9	リンパ系・消化器系：リンパ組織、中空器官、口腔	
10	消化器系①：歯、舌、唾液腺、咽頭	
11	消化器系②：嚥下、食道、胃、十二指腸	
12	消化器系③：小腸の構造、大腸の構造	
13	消化器系④：肝臓、膵臓、胆道	
14	腹膜・呼吸器：腹膜、間膜、鼻	
15	呼吸器：喉頭、気管、肺、胸膜	

【成績評価方法】

①筆記試験

※前後期共に素点が6割以上で単位修得。なお、前期再試験の結果6割以下であった場合、前期本試験と比較して良い方の素点を採用し、その点と後期本試験の素点を合算して120点以上あれば単位修得。

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
日本人体解剖学 上巻・下巻	金子丑之介	南山堂
ネッター解剖学アトラス	相磯貞和	南江堂

【科目名】

解剖学Ⅱ－②（後期）

平成31年度

分野	専門基礎	配当年次	1年	開講期間	前後期	単位数	2
担当	前田 裕子	時間数	30/60	回数	15/30	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

解剖学は解剖学Ⅰ、Ⅱで構成される。骨・関節・神経・筋・内臓などの人体の構造を中心に、各器官及び組織の形態について解剖学実習も併せて学習する。

①呼吸器（気管支・肺など）の構造と機能について説明できる

②その他の内臓器（内分泌器・泌尿器・生殖器など）の構造と機能について説明できる

回数	講義内容	備考
1	呼吸器・泌尿器：縦隔・呼吸のしくみ、腎の位置（皮質・髄質）	
2	泌尿器：腎小体、尿細管、血管、血圧・水の調整	
3	泌尿器：PHの調整・ビタミンDの活性化、尿管、膀胱、排尿機構	
4	泌尿器・男子生殖器 尿道、精子の発生まで	
5	男性生殖器：精巣上体、精巣被膜、付属器官、陰茎	
6	女性生殖器：卵巣、卵子の発生、黄体	
7	女性生殖器：卵管、子宮、月経周期、膣、外陰部	
8	女性生殖器：会陰、受精の変化、胎盤	
9	内分泌：臍帯、内分泌総論、前葉ホルモン（下垂体門脈）	
10	内分泌：視床下部ホルモン、後葉ホルモン、松果体ホルモン、甲状腺ホルモン	
11	内分泌：副腎皮質ホルモンなど	
12	内分泌・皮膚、副腎髄質ホルモン・消化管ホルモンなど、皮膚の構造	
13	皮膚・眼：皮膚の付属器官、皮膚感覚、眼球外膜	
14	眼：眼球の構造・付属器官	
15	耳：外耳・中耳・内耳の構造	

【成績評価方法】

①筆記試験

※前後期共に素点が6割以上で単位修得。なお、前期再試験の結果6割以下であった場合、前期本試験と比較して良い方の素点を採用し、その点と後期本試験の素点を合算して120点以上あれば単位修得。

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
日本人体解剖学 上巻・下巻	金子丑之介	南山堂
ネッター解剖学アトラス	相磯貞和	南江堂

【科目名】

生理学 I

平成 31 年度

分野	専門基礎	配当年次	I 年	開講期間	前期	単位数	2
担当	山本 知子	時間数	60	回数	30	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

生理学は生理学 I・II で構成される。筋・神経・感覚・循環・内分泌など人体の各生理機能を、講義・生理学実習を通じて、その基礎的内容について学習する。

①呼吸器(気管支・肺など)の構造と機能について説明できる

②その他の内臓器(内分泌器・泌尿器・生殖器など)の構造と機能について説明できる

回数	講義内容	備考
1・2	一般生理、細胞機能の基礎①(細胞の環境、人体構成物質)	
3・4	細胞機能の基礎②(細胞の構造と機能、細胞膜を通過する物質の移動)	
5・6	細胞機能の基礎③(細胞機能調節のメカニズム、受容体、細胞内シグナル)	
7・8	細胞の興奮と伝導①(興奮、細胞膜の電気的性質、活動電位発生時の細胞膜イオン透過性の変化、薬物効果、パッチクランプ、イオン ch)	
9・10	細胞の興奮と伝導②(活動電位の伝導、興奮伝導に影響を及ぼす要因、神経線維の分類)	
11・12	細胞の興奮と伝導③(神経軸索髄鞘の変性、軸索輸送)	
13・14	シナプス伝達①(シナプス、シナプス遅延、神経伝達物質の量子的放出、神経伝達物質)	
15・16	シナプス伝達②(神経伝達物質受容体、神経回路網、シナプスの可塑性、神経の成長と変性)	
17・18	筋肉の収縮①(骨格筋の構造、骨格筋・心筋・平滑筋、筋収縮の分子機構)	
19・20	筋肉の収縮②(興奮収縮連関、骨格筋の力学的性質)	
21・22	運動系①(運動制御の概念、固有感覚、脊髄、脳幹)	
23・24	運動系②(大脳皮質、大脳基底核、小脳)	
25・26	運動の生理①	
27	運動の生理②	
28・29・30	運動の生理③	

【成績評価方法】

①平常点、②筆記試験

※素点が 6 割以上で単位修得

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
生理学テキスト	大地陸男	文光堂

【科目名】

生理学Ⅱ－①

平成31年度

分野	専門基礎	配当年次	1年	開講期間	後期	単位数	2
担当	竹村 京子	時間数	40/75	回数	20/38	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

生理学Ⅱでは、血液・脳の統合機能・呼吸・腎臓・感覚・体温・自律神経系などの人体の各生理機能の基礎知識を理解する。生理学実習(動物実習・脳波実習)では、中枢神経系の機能や脳波の基礎知識を学習する

①中枢神経系(感覚系・自律神経系含む)の機能を説明できる

②呼吸器系の機能を説明できる

③腎機能について説明できる

回数	講義内容	備考
1・2	血液①:組成、赤血球・白血球・血漿蛋白の機能	
3・4	血液②:生体防御、血液型、血小板、血液凝固	
5・6	脳の統合機能:大脳皮質の構造、機能局在、連合野の機能と障害、言語野と失語症、本能と情動、学習、記憶	
7・8	呼吸:呼吸器の構造・機能、呼吸運動、肺気量、死腔、呼吸力学	
9・10	呼吸:肺のガス交換、換気血流の不均衡、酸塩基平衡、呼吸運動の調節、異常呼吸パターン	
11・12	感覚:感覚の分類、体性感覚(受容器、一般性質、皮膚分節、伝導路)、嗅覚・味覚の構造と機能	
13・14	感覚(視覚):眼球の構造、遠近調節と屈折異常、視細胞と視物質、視覚伝導路と視野の欠損、視野、外眼筋	
15・16	腎臓:構造、ネフロン、糸球体と尿細管の機能、排尿反射、クリアランス、バソプレシンとアルドステロンの作用、	
17・18	体温調節:産熱と放熱、体温の分布と日内変動、体温調節のメカニズム、発熱と解熱の機序 自律神経系:構成と機能、両神経系の走行の特徴、刺激伝達物質と受容体、カテコラミンの作用	
19・20	聴覚・平衡覚:構造と機能	
21・22 23	生理学実習:カエルの中枢神経系に関する実験(大脳・中脳・小脳・延髄の切除による切除前後の機能の変化の観察、脊髄カエルにおける脊髄反射の観察)	
24・25 26	生理学実習:ヒトの脳波の測定(自発脳波の導出、個人差、 α ブロッキング、音楽刺激による脳波変化、脳波の発生機序、睡眠の脳波)	
27・28	全項目の重点まとめ(演習問題を含めて)	

【成績評価方法】

①筆記試験
※生理学Ⅱ－①②それぞれで6割以上をとる。再試験はそれぞれで行い、どちらかが6割以下の場合は評価が「不可」となる。それぞれが「可」以上の場合、平均点が科目素点となる。

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
生理学テキスト	大地陸男	文光堂
【参考図書】人体の構造と機能 第4版	エレイン N, マリーブ	医学書院

【科目名】

生理学Ⅱ－②

平成31年度

分野	専門基礎	配当年次	1年	開講期間	後期	単位数	2
担当	種村 麻里	時間数	30/75	回数	15/38	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

生理学Ⅱでは、血液・脳の統合機能・呼吸・腎臓・感覚・体温・自律神経系などの人体の各生理機能の基礎知識を理解する。生理学実習(動物実習・脳波実習)では、中枢神経系の機能や脳波の基礎知識を学習する

①循環器系の機能について説明できる

②消化器系の機能について説明できる

③内分泌系の機能について説明できる

回数	講義内容	備考
1・2	循環の生理① 循環の基礎、心臓の構造 循環の生理② 興奮伝導系、心電図、心臓ポンプ機能	
3・4	循環の生理③ 血管の構造と働き、血圧 循環の生理④ リンパ管系、循環の調節、局所の循環	
5・6	消化と吸収① 消化管の構造、口腔・胃内の消化 消化と吸収② 胃液分泌の調節、小腸の運動、膵液・胆汁の分泌	
7・8	消化と吸収③ 腸液の分泌、吸収、大腸の働き 消化と吸収④ 排便、肝臓の働き 栄養と代謝① 三大栄養素の特徴、糖質の働き	
9・10	栄養と代謝② 内呼吸、脂質・蛋白質の働きと代謝、ビタミン 栄養と代謝③ ビタミン、無機質、基礎代謝量とエネルギー代謝 内分泌系の機能① 内分泌の定義	
11・12	内分泌系の機能② ホルモン of 化学的組織と作用機序・分泌・調節、視床下部・下垂体前葉ホルモン 内分泌系の機能③ 下垂体後葉ホルモン、甲状腺ホルモン、副甲状腺ホルモンとカルシトニン、膵臓のホルモン	
13・14	内分泌系の機能④ 副腎皮質のホルモンとレニン・アンジオテンシン系、副腎髄質のホルモン、生殖(減数分裂、性分化、第二性徴) 内分泌系の機能⑤ 精巣のホルモンと精子の形成、卵巣のホルモンと卵子熟	
15・16	内分泌系の機能⑥ 女性の性周期、妊娠と分娩、その他のホルモン、総復習プリント	

【成績評価方法】

①筆記試験
※生理学Ⅱ－①②それぞれで6割以上のとき単位修得。再試験はそれぞれで行い、どちらかが6割以下の場合には評定が「不可」となる。それぞれが「可」以上の場合、平均点が科目素点となる。

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
シンプル生理学 第7版	貴邑 富久子	南江堂

【科目名】

生理学Ⅱ－③

平成31年度

分野	専門基礎	配当年次	1年	開講期間	後期	単位数	2
担当	中原 英博	時間数	5/75	回数	3/38	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

生理学Ⅱでは、血液・脳の統合機能・呼吸・腎臓・感覚・体温・自律神経系などの人体の各生理機能の基礎知識を理解する。生理学実習(動物実習・脳波実習)では、中枢神経系の機能や脳波の基礎知識を学習する

①有酸素運動の方法について説明できる

回数	講義内容	備考
1・2	運動生理学(講義) 生活習慣病とその誘発要因、有酸素運動(強度、頻度、持続時間)	
3・4	運動生理学(実習) 運動時の心拍測定:様々な運動またはメンタルストレス時の心拍数測定	

【成績評価方法】

出席確認のみ

※生理学Ⅱ－①②それぞれで6割以上をとる。再試験はそれぞれで行い、どちらかが6割以下の場合は評定が「不可」となる。それぞれが「可」以上の場合、平均点が科目素点となる。

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
資料配布		

【科目名】

基礎運動学 I

平成 31 年度

分野	専門基礎	配当年次	I 年	開講期間	後期	単位数	2
担当	中谷 秀美	時間数	60	回数	30	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

運動器を中心にその正常状態・運動学・運動力学について、運動学実習を通して、学習する。

- ①下肢の関節運動のメカニズムについて説明できる
- ②正常歩行のメカニズムについて説明できる
- ③随意運動の制御システムについて説明できる

回数	講義内容	回数	講義内容
1	運動学総論	16	膝関節の運動学Ⅵ
2	運動力学Ⅰ	17	足関節の運動学Ⅰ
3	運動力学Ⅱ	18	足関節の運動学Ⅱ
4	運動学各論	19	足関節の運動学Ⅲ
5	股関節の運動学Ⅰ	20	足関節の運動学Ⅳ
6	股関節の運動学Ⅱ	21	足関節の運動学Ⅴ
7	股関節の運動学Ⅲ	22	足関節の運動学Ⅵ
8	股関節の運動学Ⅳ	23	足関節の運動学Ⅶ
9	股関節の運動学Ⅴ	24	歩行Ⅰ
10	股関節の運動学Ⅵ	25	歩行Ⅱ
11	膝関節の運動学Ⅰ	26	歩行Ⅲ
12	膝関節の運動学Ⅱ	27	歩行Ⅳ
13	膝関節の運動学Ⅲ	28	歩行Ⅴ
14	膝関節の運動学Ⅳ	29	運動制御
15	膝関節の運動学Ⅴ	30	静力学

【成績評価方法】

①小テスト②筆記試験

※本試験は小テスト 2 割、筆記試験 8 割とし、素点が 6 割以上で単位修得

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
基礎運動学 第 6 版補訂	中村隆一	医歯薬出版
筋骨格系のキネシオロジー	嶋田智明 監訳	医歯薬出版
関節運動学的アプローチ	博田節夫	医歯薬出版

【科目名】						平成 31 年度	
基礎運動学Ⅱ							
分野	専門基礎	配当年次	2 年	開講期間	前期	単位数	2
担当	中谷 秀美	時間数	60	回数	30	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
運動器を中心にその正常状態・運動学・運動力学について、運動学実習を通して、学習する。							
①上肢の関節運動のメカニズムについて説明できる							
②体幹の関節運動のメカニズムについて説明できる							
③異常歩行の種類と特徴について説明できる							
④運動学習の過程とそのモデルについて説明できる							
回数	講義内容			回数	講義内容		
1	総論 上肢			16	手についてまとめ		
2	肩甲帯の運動			17	手についてまとめ		
3	上肢帯と肩甲帯の筋とその活動			18	体幹		
4	肩甲上腕関節の運動			19	頭部・頸椎の運動		
5	肩甲上腕関節の筋とその活動			20	胸椎の運動		
6	肩複合体まとめ			21	腰椎・仙椎の運動		
7	肘（腕尺・腕橈・上橈尺関節）の運動			22	体幹の筋とその活動		
8	上腕の筋とその活動			23	体幹まとめ		
9	肘のまとめ			24	眼球と顔面		
10	手関節の運動			25	咀嚼と呼吸		
11	手関節の筋とその活動			26	異常歩行①		
12	手関節のまとめ			27	異常歩行②		
13	手指			28	異常歩行③		
14	手指の関節の運動			29	運動学習①		
15	手指の筋とその活動			30	運動学習②		
【成績評価方法】							
①小テスト、②筆記試験							
※本試験は小テスト 2 割、筆記試験 8 割とし、素点が 6 割以上で単位修得。							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
基礎運動学 第 6 版補訂				中村隆一		医歯薬出版	
筋骨格系のキネシオロジー				嶋田智明 監訳		医歯薬出版	
関節運動学的アプローチ				博田節夫		医歯薬出版	

【科目名】

人間発達学

平成31年度

分野	専門基礎	配当年次	1年	開講期間	前期	単位数	1
担当	永島 智里	時間数	15	回数	8	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

人間に対する理解の基礎として、各段階における身体と運動機能の発達、知的・心理的・社会的発達、人格の発達などを学習する。

- ①乳幼児・小児期における運動・精神・言語発達について説明できる
- ②青年期における身体構造・生理機能の変化について説明できる
- ③老年期における身体構造・生理機能の変化について説明できる

回数	講義内容	備考
1	人間発達学とは 人間が生まれてから成人・老年期までに向けて、身体を通じて環境適応してゆくための基盤をつくる正常発達を学ぶ。	
2	正常運動とは	
3	正常発達の意義	
4	正常発達①、0～3ヶ月、4～6ヶ月	
5	正常発達②、6～9ヶ月	
6	正常発達③、9～12ヶ月	
7	正常発達④、運動と姿勢、実技	
8	正常姿勢制御、姿勢反応、平衡反応、バランスの手がかり	

【成績評価方法】

①筆記試験

※素点が6割以上で単位修得

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
発達を学ぶ 人間発達学レクチャー	森岡 周	協同医書出版

【科目名】

病理学

平成31年度

分野	専門基礎	配当年次	1年	開講期間	後期	単位数	1
担当	森本 純司	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

疾病の原因及び形態変化を、主要疾病と関連させながらその基本的内容について学習する。

- ①傷害組織の修復過程ならびに再生過程について説明できる
- ②炎症反応のメカニズムについて説明できる
- ③血行障害の病因・病態について説明できる
- ④腫瘍の分類、グレード、ステージについて説明できる

回数	講義内容	備考
1	病理学とは、病因論、病理学の役割・内容と病気の原因	
2	細胞傷害と細胞増殖：組織細胞の修復と再生、壊死とアポトーシス、変性、再生、創傷治癒、骨折治癒、異物処理	
3	循環障害：充血、うっ血、虚血、血栓症、出血、塞栓症、梗塞、ショック、浮腫、脱水症	
4	炎症：炎症の徴候、急性炎症、分類、慢性炎症、特殊性炎感染症	
5	免疫：免疫機構の異常、液性・細胞性免疫、免疫担当細胞、抗原・抗体（免疫グロブリン）、アレルギー、自己免疫疾患	
6	遺伝と遺伝病：先天異常（奇形）、遺伝要因と環境要因、先天性代謝異常、遺伝子診断	
7	腫瘍：特徴、組織分類、転移、良性・悪性の鑑別、機能性腫瘍、腫瘍マーカー、発生要因、腫瘍の宿主との関係、疫学	
8	代謝異常：石灰沈着、細胞内外物質沈着、黄疸、蛋白質代謝異常、脂質代謝異常、糖質代謝異常、萎縮、肥大・過形成	
9	循環器：先天性心疾患、虚血性心疾患、心内膜炎、弁膜症、心筋症、心肥大と心不全、血管の病気	
10	呼吸器：上気道、下気道の病気、循環障害、炎症、腫瘍など	
11	消化器：口腔、唾液腺、食道の病気、胃・腸の病気、肝臓・膵臓の病気	
12	内分泌臓器：脳下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎皮質、髄質、膵臓ラ氏島の病気	
13	造血器：赤血球・白血球の異常、血小板の異常、リンパ節の病気、脾臓、胸腺の病気	
14	泌尿器・生殖器：腎臓の病気、子宮頸部・体部の病気、織毛性疾患、卵巣・乳腺の病気、男性生殖器の病気	
15	運動器：骨・関節の病気、骨の炎症及び腫瘍病変、関節・筋肉の病気、脳神経系：脳の循環障害、感染症、脱髄、変性疾患 など	

【成績評価方法】

①筆記試験
※素点が6割以上で単位修得

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
シンプル病理学 第7版	笹野公伸	南江堂

【科目名】

医学概論

平成31年度

分野	専門基礎	配当年次	1年	開講期間	後期	単位数	1
担当	畠山 雅行	時間数	15	回数	8	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

医学の成り立ちや基本姿勢、医学対象となる健康・病気の概念や病気の成り立ちと基本的な診断・治療について学ぶ。

- ①医の倫理（患者・対象者の権利、医療者の義務）について説明できる
- ②健康の定義・概念について説明できる
- ③病気成り立ちについて説明できる
- ④病気の治療方法について説明できる

回数	講義内容	備考
1	医療をどのようにとらえるか	
2	医学史	
3	健康・病気の体系	
4	病気の診断	
5	病気の治療とリハビリテーション	
6	リハビリテーション	
7	新しい医療システム①	
8	新しい医療システム②	

【成績評価方法】

①平常点、②筆記試験【教科書持ち込み可】

※素点が6割以上で単位修得

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
医学概論	日野原重明	医学書院

【科目名】

内科学

平成31年度

分野	専門基礎	配当年次	2年	開講期間	前後期	単位数	2
担当	栗岡 英行	時間数	60	回数	30	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

臨床医学全般を概観し、疾病と障害の成り立ちおよび回復過程等の必要とされる基本的な医学的知識について学習する。

- ①一般的な循環器疾患について説明できる
- ②一般的な呼吸器疾患について説明できる
- ③一般的な消化器疾患について説明できる
- ④一般的な腎・泌尿器疾患について説明できる
- ⑤一般的な血液・自己免疫疾患について説明できる

回数	講義内容	備考
1・2	内科総論	
3・4	診断と検査	
5・6	症候	
7・8	循環器疾患	
9・10	呼吸器疾患	
11・12	消化器疾患	
13・14	肝胆膵疾患	
15・16	血液・造血器疾患	
17・18	代謝性疾患	
19・20	内分泌疾患	
21・22	腎・泌尿器疾患	
23・24	膠原病・アレルギー・免疫不全	
25・26	感染性疾患	
27・28	中毒・環境要因による疾患	
29・30	その他	

【成績評価方法】

①小テスト②筆記試験

※素点が6割以上で単位修得

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
なるほどなっとく! 内科学		南山堂

【科目名】

神経科学(神経内科学)

平成31年度

分野	専門基礎	配当年次	2年	開講期間	前期	単位数	2
担当	森下真次、拾尾和彦	時間数	30/45	回数	15/23	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

神経科学は、神経内科学(30時間/2年)および脳神経外科学(15時間/2年)の2単位により構成される。神経症候学ならびに神経内科、および脳神経外科領域でみられる疾患、障害の基礎的知識を学習する。

①一般的な神経症候について説明できる

②一般的な神経内科疾患について説明できる

回数	講義内容	備考
1	神経症候学① 意識障害	森下
2	神経疾患各論① 脳血管障害	拾尾
3	神経症候学② 運動麻痺・錐体路徴候・筋萎縮	森下
4	神経疾患各論② 認知症	拾尾
5	神経症候学③ 錐体外路徴候・不随意運動	森下
6	神経疾患各論③ 脱髄疾患(GBS、LIDP)	拾尾
7	神経症候学④ 運動失調	森下
8	神経疾患各論④ 変性疾患(ALS、PD 診断)	拾尾
9	神経症候学⑤ 感覚障害	森下
10	神経疾患各論⑤ 変性疾患(PD 治療、パーキンソン症候群 SCD、MSA)	拾尾
11	神経症候学⑥ 失認・失行	森下
12	神経疾患各論⑥ 筋疾患(ミオパチー、神経筋接合部疾患総論)	拾尾
13	神経症候学⑦ 脳神経外科領域の疾患	森下
14	神経疾患各論⑦ 代謝疾患(感染症、髄膜炎総論)	拾尾
15	神経疾患各論⑧ 感染症	拾尾

【成績評価方法】

①講師ごとに筆記試験

※素点が6割以上で単位修得

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
病気が見える vol.7 脳・神経 第2版		メディックメディア

【科目名】						平成 31 年度	
神経科学（脳神経外科学）							
分野	専門基礎	配当年次	2 年	開講期間	後期	単位数	2
担当	川口 正一郎	時間数	15/45	回数	8/23	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
神経科学は、神経内科学（30 時間／2 年）および脳神経外科学（15 時間／2 年）の 2 単位により構成される。神経症候学ならびに神経内科、および脳神経外科領域でみられる疾患、障害の基礎的知識を学習する。 ①一般的な脳血管疾患について説明できる ②一般的な脳神経外科疾患について説明できる							
回数	講義内容						備考
1	神経系の構造と機能①						
2	神経系の機能と構造②、症候と検査						
3	脳血管障害 虚血性①						
4	脳血管障害 虚血性②						
5	脳血管障害 出血性						
6	頭蓋内圧亢進 水頭症						
7	脳腫瘍						
8	頭部外傷						
【成績評価方法】							
①筆記試験 ※素点が 6 割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
病気が見える vol.7 脳・神経 第 2 版						メディックメディア	

【科目名】						平成 31 年度	
外科学総論							
分野	専門基礎	配当年次	2 年	開講期間	後期	単位数	1
担当	大野 耕一	時間数	15	回数	8	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
理学療法士として必要な脳神経外科学、胸部外科学、消毒・救急学に関する外科的知識の基礎を学習する。							
①外科の一般的疾患について説明できる							
②外科的治療について説明できる							
③消毒法について説明できる							
回数	講義内容						備考
1	オリエンテーション、リハビリテーションとは、						
2	リハ栄養 BCAA ERAS について						
3	外科の歴史、IC について						
4	医療保険制度、滅菌と消毒法						
5	がんの話し						
6	外科侵襲とその病態生理						
7	内視鏡外科						
8	体表に見られる代表的な外科疾患・損傷						
【成績評価方法】							
①筆記試験							
※素点が 6 割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
標準外科学 Standard textbook 第 14 版						医学書院	

【科目名】						平成 31 年度	
整形外科学							
分野	専門基礎	配当年次	2 年	開講期間	前後期	単位数	2
担当	東山 一郎	時間数	60	回数	30	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
理学療法に必要な骨関節、神経疾患など必要な整形外科学的知識を学習する。							
①骨関節障害の一般的疾患について説明できる							
②骨関節障害の治療について説明できる							
回数	講義内容			回数	講義内容		
1	整形外科の基礎① 骨の構造			16	整形外科各論⑥ 末梢神経損傷		
2	整形外科の基礎② 軟骨の構造①			17	整形外科各論⑦ 頸部・頸椎部疾患①		
3	整形外科の基礎③ 軟骨の構造②、筋肉の構造①			18	整形外科各論⑧ 頸部・頸椎部疾患②		
4	整形外科の基礎④ 筋肉の構造②			19	整形外科各論⑨ 胸腰椎部疾患①		
5	整形外科の基礎⑤ 末梢神経の構造			20	整形外科各論⑩ 胸腰椎部疾患②		
6	整形外科の基礎⑥ 関節の変形・拘縮			21	整形外科各論⑪ 肩甲帯部疾患①		
7	整形外科の基礎⑦ 整形外科学診断学			22	整形外科各論⑫ 肩甲帯部疾患②		
8	整形外科の基礎⑧ 整形外科的治療学			23	整形外科各論⑬ 肘・前腕の疾患①		
9	整形外科の基礎⑨ 整形外科的外傷学			24	整形外科各論⑭ 肘・前腕の疾患②		
10	整形外科の基礎⑩ スポーツ外傷			25	整形外科各論⑮ 手関節疾患		
11	整形外科各論① 整形外科領域の感染症			26	整形外科各論⑯ 手指疾患		
12	整形外科各論② リウマチ性疾患			27	整形外科各論⑰ 骨盤・股関節疾患①		
13	整形外科各論③ 代謝性骨疾患			28	整形外科各論⑱ 骨盤・股関節疾患②		
14	整形外科各論④ 骨・軟部腫瘍			29	整形外科各論⑲ 膝関節疾患		
15	整形外科各論⑤ 脳性麻痺			30	整形外科各論⑳ 足関節・足疾患		
【成績評価方法】							
①筆記試験							
※素点が 6 割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
標準整形外科学 第 13 版				鳥巢 岳彦		医学書院	

【科目名】						平成31年度	
精神医学							
分野	専門基礎	配当年次	2年	開講期間	前期	単位数	1
担当	上川 比呂勝	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
分裂病やてんかん、そう・うつ病、老年期精神障害など、精神医学の基礎知識を学習する。							
①精神障害の一般的疾患について説明できる							
②精神障害の治療について説明できる							
回数	講義内容						備考
1	自己紹介、講義の概要アルツハイマー型認知症						
2	アルツハイマー型認知症、ADの記憶障害の特徴 ニューロンとシナプス、心とは						
3	脳血管性認知症、脳血管性認知症の症状と病理と治療						
4	統合失調症、症状、思考障害、発病、治療						
5	統合失調症、症状、思考障害、発病、治療						
6	統合失調症、症状、思考障害、発病、治療						
7	気分障害、うつの症状、経過、注意点						
8	気分障害、うつの症状、経過、注意点						
9	気分障害、うつの症状、経過、注意点						
10	神経症および心因性精神障害						
11	老年期の精神障害						
12	アルコール症						
13	てんかん						
14	症状精神病						
15	器質性精神障害、人格障害、児童思春期の精神障害						
【成績評価方法】							
①筆記試験【持ち込みあり:教科書、ノート、プリント】							
※素点が6割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
看護のための精神医学 第2版				中井 久夫		医学書院	

【科目名】						平成31年度	
小児科学							
分野	専門基礎	配当年次	2年	開講期間	前期	単位数	1
担当	石垣早知子、神原雪子	時間数	15	回数	8	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
小児の成長、発達と小児期によくみられる疾患を中心に学習し、小児期における疾患の特徴を理解できることを目標に教授する。 ①小児の障害を引き起こす一般的疾患について説明できる ②小児の障害を引き起こす主な疾患の治療について説明できる							
回数	講義内容						備考
1	小児科学概論						石垣
2	新生児未熟児、先天異常、遺伝性疾患 乳幼児健診、予防接種						石垣
3	中枢神経疾患、てんかん、脳性麻痺、筋疾患						石垣
4	感染症、感染対策						石垣
5	消化器疾患、内分泌疾患						石垣
6	精神遅滞、発達障害、自閉症、ADHD、LD、循環器、呼吸器疾患						神原
7	心身症、重心児、医療的ケア、眼科疾患、聴覚障害、小児MRIの見方						神原
8	血液疾患、免疫、アレルギー疾患、腎疾患、腫瘍性疾患、他まとめ						石垣
【成績評価方法】							
①筆記試験 ※素点が6割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第4版				奈良 勲 監修		医学書院	

【科目名】						平成31年度	
臨床心理学							
分野	専門基礎	配当年次	2年	開講期間	前期	単位数	1
担当	西部 美志	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
障害者の心理を理解できるよう正常および異常心理、心理学的検査・カウンセリングについて学習する。 ①患者・対象者心理について説明できる ②臨床心理検査法について説明できる ③心理療法およびカウンセリングについて説明できる							
回数	講義内容						備考
1	臨床心理学とは（歴史と概観 こころの理解と援助）						
2	心理援助の実際、様々な事例に学ぶ						
3	心理援助の基礎を学ぶ、人格論、フロイト						
4	心理援助の基礎を学ぶⅠ、人格論、ユング、ロジャース						
5	心理援助の基礎を学ぶⅢ、人格論、コフート、カーンバーグ						
6	心理援助の基礎を学ぶⅣ、発達論、マラー、ウニコット、エリクソン						
7	心理援助の基礎を学ぶⅤ、発達論、ピアジェ						
8	心理アセスメントⅠ、アセスメントとは						
9	心理アセスメントⅡ、人格検査						
10	心理アセスメントⅢ、その他の検査、心理テスト実習						
11	心理援助の方法を知る、心理療法とは、クライエント中心療法						
12	心理援助の方法を知るⅡ、精神分析療法						
13	心理援助の方法を知るⅢ、行動療法						
14	心理援助の方法を知るⅣ、その他（パーソナリティ・学習・記録）、国試対策						
15	まとめ、国試対策						
【成績評価方法】							
①筆記試験 ※素点が6割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
心とかかわる臨床心理 第3版				川瀬正裕 他		ナカニシヤ出版	

【科目名】

リハビリテーションⅠ

平成31年度

分野	専門基礎	配当年次	1年	開講期間	後期	単位数	1
担当	赤松 眞吾	時間数	15	回数	8	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

リハビリテーションの理念と病気と障害、リハビリテーション過程、及び包括的なリハビリテーションの考え方を学習する。

- ①リハビリテーションについて説明できる
- ②チーム医療・他職種連携について説明できる
- ③リハビリテーション医療専門職の役割について説明できる

回数	講義内容	備考
1	リハビリテーション、歴史、概念、医学的リハビリテーション、リハビリテーション医学、ICIDHとICFの違い	赤松
2	職業的リハ、教育的リハ、社会的リハ、障害と病期	赤松
3	SOAP法、クリニカルパス、法規、諸問題	赤松
4	医師の役割、リハビリテーション処方について、今後のリハビリテーション（透析患者へのリハ、がんリハ、再生医療とリハ、超音波とリハ、ロボットとリハ）	赤松
5	看護師の役割、①看護師の業務内容、②看護師の活躍の場、③チームアプローチについて医師の役割	Nrs
6	作業療法と作業療法士、①作業療法士の役割、②身体障害の作業療法、③精神障害の作業療法、④PTとの協働	OT
7	言語聴覚士の臨床（失語症、嚥下障害）、①失語症のタイプ、症状、②失語症のリハビリの流れ、③失語症患者様への対応ほか	ST
8	MSWの役割	MSW
9	奈良県総合リハビリテーションセンター施設見学、県営福祉パーク見学・体験	校外学習

【成績評価方法】

筆記試験

※素点が6割以上で単位修得

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
医学生・コメディカルのための手引書 リハビリテーション概論 改訂第3版		

【科目名】						平成31年度	
リハビリテーションⅡ							
分野	専門基礎	配当年次	2年	開講期間	後期	単位数	1
担当	濱中 紀成	時間数	15	回数	8	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
リハビリテーション医学の概念と、各障害に対するリハビリテーション医学の基本原則を学習する							
①リハビリテーション医療の特徴について説明できる							
②リハビリテーション医療における医学的情報（病理・生理・画像診断含む）について説明できる							
③リハビリテーション医療で取り扱う身体障害の治療について説明できる							
回数	講義内容						備考
1	リハビリテーション医学概論 リハビリテーション評価						
2	画像検査						
3	一般検査						
4	脳性麻痺、障害受容、循環機能障害						
5	脳障害、パーキンソン病と変性疾患						
6	切断						
7	脊髄損傷、CRPS、精神障害						
8	腰痛症 内部障害						
【成績評価方法】							
①筆記試験							
※素点が6割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
最新リハビリテーション医学 第3版				米本 恭三監修		医歯薬出版	

【科目名】						平成 31 年度	
保健医療福祉関係論							
分野	専門基礎	配当年次	3 年	開講期間	前後期	単位数	2
担当	畠山 雅行	時間数	45	回数	23	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
保健・医療・福祉にわたり理学療法士として必要な社会福祉や公衆衛生、及び公的介護保険に関する医療制度などの基本的知識を学習する。また、グループ学習やレポート課題も実施する。							
①保健・医療・福祉の政策の動向について説明できる							
②社会保障制度（医療保険制度、介護保険制度など）について説明できる							
③健康維持、健康増進における理学療法士の役割について説明できる							
④災害保健における理学療法士の役割について説明できる							
⑤地域保健および学校保健（特別支援教育など）における理学療法士の役割について説明できる							
⑥産業保健における理学療法士の役割について説明できる							
⑦国際支援に関わる基盤について説明できる							
回数	講義内容		回数	講義内容			
1	保健医療福祉概論		12	地域保健、地域保健と保健行政			
2	保健医療福祉、基本用語の解説		13	災害保健			
3	グループ活動、テーマの調整		14	環境、産業廃棄物、食中毒			
4	健康プランの作成		15	環境、公害、バリアフリー、地球環境問題			
5	災害、行政、災害保険、現状と対策		16	母子保健、リプロダクティブヘルスライツ、少子化対策			
6	がん、がん検診		17	産業保健、産業疫学、職業病			
7	健康課題		18	精神保健、精神疾患、メンタルヘルス、入院形態			
8	成人保健の疫学		19	国際保健、NGO・NPO			
9	感染症、非感染症		20	保健関連法規			
10	自殺、高血圧等		21	グループ発表			
11	自殺、不慮の事故		22・23	まとめ			
【成績評価方法】							
①発表、②筆記試験							
※①と②を合算し、素点が 6 割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
シンプル衛生公衆衛生学				鈴木 庄亮		南江堂	

【科目名】

理学療法概論

平成 31 年度

分野	専門	配当年次	1 年	開講期間	前期	単位数	2
担当	赤松 眞吾	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

理学療法について、その全体像が把握できるように、また専門領域への導入を助けるため、施設見学を含め総合的・体系的に学習する。

- ①理学療法の定義について説明できる
- ②理学療法とリハビリテーションの違いについて説明できる
- ③理学療法の過程について説明できる
- ④各病期（急性期、回復期、生活期、介護・終末期）における理学療法の意義や目的について説明できる
- ⑤理学療法士の職域について説明できる

回数	講義内容	備考
1	オリエンテーション、理学療法カリキュラム概要	
2	理学療法士の定義	
3	PT・OT 法について①	
4	PT・OT 法について②	
5	障がいについて① (ICIDH)	
6	障がいについて② (ICF)	
7	障がいについて③まとめ	
8	世界の理学療法	
9	EBM・EBPT	
10	理学療法の治療技術について①運動療法	
11	理学療法の治療技術について②物理療法	
12	理学療法の治療技術について③ADL 訓練	
13	障害受容について	
14	理学療法業務について①	
15	理学療法業務について②	

【成績評価方法】

①出席点、②筆記試験

※評定は①15%②85%を合わせて 60%以上で単位修得

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
理学療法概論 (PT・OT ビジュアルテキスト) 第 1 版	庄本康治	羊土社

【科目名】

理学療法概論実習

平成 31 年度

分野	専門	配当年次	1 年	開講期間	後期	単位数	1
担当	複数教員	時間数	45	回数		授業方法	実験・実習・実技

授業の概要、到達目標

理学療法について、その全体像が把握できるように、また専門領域への導入を助けるために、施設見学を含め総合的・体系的に学習する。

- ①清潔で適切な身だしなみ、ことば遣い、礼儀正しい態度で対象者に接することができる
- ②共感的態度をもって、より良い・善い人間関係を構築することができる
- ③自らが置かれた立場で、必要とされる要件を認識し、指導者の助言に対して適切に応答することができる
- ④医療職としての心得や職場内におけるルールを守ることができる
- ⑤守秘義務を果たし、プライバシーを守ることができる
- ⑥臨床実習施設が関わる地域包括ケアについて説明することができる

回数	講義内容
期間	平成 31 年 1 月 15 日～1 月 19 日
実習目的	理学療法概論実習は、病院・施設等の理学療法部門において、臨床指導者の指導を仰ぎながら、業務と役割を知り、また症例を通して、情報収集から理学療法プログラム実施計画の作成にいたる理学療法のプロセスについて理解することを主な目的とする。
実習目標	理学療法概論実習では、病院・施設の見学を通して、地域社会や保健・医療・福祉分野における理学療法士の役割と責任を全体的に理解する。

【成績評価方法】

①実習成果表、②実習課題記録表、③実習終了後の学内報告会、④レジメ①～④を総括し評価を行う。
※欠席日数が出席義務日数の 1 割を超える場合は評価を受ける資格を失う。

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
全ての科目の教科書および参考図書		

【科目名】						平成 31 年度	
臨床運動学							
分野	専門	配当年次	2 年	開講期間	前後期	単位数	2
担当	田中貴広、建内宏重 森公彦、脇田正徳	時間数	60	回数	30	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
運動学により習得した基礎的知識・技術を踏まえ、運動障害者の分析と問題点の理解を中心に学習する。また、実習やビデオを利用して実践を学ぶ。							
①上肢関節の運動機能障害について運動学的に説明できる ②下肢関節の運動機能障害について運動学的に説明できる ③体幹関節の運動機能障害について運動学的に説明できる							
回数	講義内容						備考
1・2	総論、臨床運動学とは、障害を運動学的に解釈することについて例を提示しながら解説						田中
3・4	運動学の基礎、臨床運動学の理解に必要な、重心、支持基底面、関節モーメントについて解説						田中
5・6	神経筋機能、臨床運動学の理解に必要な、長さ張力曲線、筋断面積、サイズの原理、筋作用の逆転、反応時間、RFD などについて解説						田中
7・8	姿勢とその障害 立位姿勢の基礎および障害について、運動学的に解説						建内
9・10	歩行とその障害 歩行の基礎および障害について、運動学的に解説						建内
11・12	肩関節の機能とその障害 肩関節の機能および障害について、運動学的に解説						建内
13・14	股関節の機能とその障害 股関節の機能および障害について、運動学的に解説						建内
15・16 17・18	脊柱・体幹の機能とその障害 脊柱・体幹の機能および障害について、運動学的に解説						森
19・20 21・22	足関節・足部・足趾の機能とその障害 足関節・足部・足趾の機能および障害について、運動学的に解説						森
23・24 25・26	膝関節の運動学①・膝の運動学② 膝関節の病態運動学①・膝関節の病態運動学②						脇田
27・28 29・30	中枢神経疾患の運動学①(脳卒中)・②(パーキンソン) 中枢神経疾患の運動学③(失調中)・④(その他)						脇田
【成績評価方法】							
①筆記試験 ※素点が 6 割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
身体運動学－関節の制御機構と筋機構－				市橋則明		メジカルビュー	

【科目名】						平成 31 年度	
動作分析学Ⅰ							
分野	専門	配当年次	2 年	開講期間	前期	単位数	1
担当	小林 功	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
動作障害を評価するうえで重要な位置を占める運動・動作分析について、目視による観察と動作解析機器のデータを用いてより多角的に動作を分析できるよう学習する。							
①基本的動作の分析方法について説明できる							
②健常な基本的動作を観察して記録できる							
回数	講義内容						備考
1	レポートの書き方(序論—本論—結論)						
2	重心・床反力・関節角度・関節モーメント						
3	運動連鎖						
4	立ち上がり動作						
5	歩行動作						
6	異常歩行動作						
7	寝返り動作の理解、起き上がり動作						
8	階段昇降動作						
9	変形性股関節症 異常歩行動作						
10	変形性股関節症 異常歩行動作						
11	変形性膝関節症 異常歩行動作						
12	変形性膝関節症 異常歩行動作						
13	脳卒中片麻痺 異常歩行動作						
14	脳卒中片麻痺 異常歩行動作						
15	脳卒中片麻痺 異常歩行動作						
【成績評価方法】							
①筆記試験【持ち込みあり:教科書、ノート、プリント】							
※素点が 6 割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
看護のための精神医学 第 2 版				中井 久夫		医学書院	

【科目名】						平成 31 年度	
動作分析学Ⅱ							
分野	専門	配当年次	3 年	開講期間	前期	単位数	1
担当	小林 功	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
動作障害を評価するうえで重要な位置を占める運動・動作分析について、目視による観察と動作解析機器のデータを用いてより多角的に動作を分析できるよう学習する。							
①動作解析機器の使い方について説明できる							
②疾患特異的な基本的動作の異常を観察して記録できる							
回数	講義内容						備考
1	表面筋電図で計測できるもの						
2	3次元動作解析機で計測できるもの Image Jで計測できるもの						
3	股関節疾患 Trenderenberg signとDuchenne signにおける筋活動の違い①						
4	股関節疾患 Trenderenberg signとDuchenne signにおける筋活動の違い②						
5	脳卒中 Stiff knee patternとExtension thrust patternにおける筋活動の違い①						
6	脳卒中 Stiff knee patternとExtension thrust patternにおける筋活動の違い②						
7	膝関節疾患 立ち上がり時の体幹前傾角度・膝角度(下腿前傾)の関連性①						
8	膝関節疾患 立ち上がり時の体幹前傾角度・膝角度(下腿前傾)の関連性②						
9	足関節疾患 階段昇降における足関節可動域制限の影響①						
10	足関節疾患 階段昇降における足関節可動域制限の影響②						
11	脳卒中 装具療法の種類における歩行の変化①						
12	脳卒中 装具療法の種類における歩行の変化②						
13	膝関節 変形性膝関節症の膝内反ストレスを減らす戦略①						
14	膝関節 変形性膝関節症の膝内反ストレスを減らす戦略②						
15	総まとめ						
【成績評価方法】							
①レポート							
※素点が6割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
講義資料							

【科目名】

理学療法障害学Ⅰ

平成31年度

分野	専門	配当年次	1年	開講期間	後期	単位数	1
担当	小林 功	時間数	15	回数	8	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

理学療法で扱う障害の概念や各疾患で起こる障害構造を理解する。

- ①国際障害分類(ICIDH、ICF)について説明できる
- ②理学療法の対象となる身体障害について説明できる
- ③二次障害について説明できる

回数	講義内容	備考
1	ICDの総論 ICD・ICIDH・ICFの違い	
2	国際障害分類(ICIDH)の総論	
3	国際障害分類(ICIDH)を用いた障害の把握(大腿骨頸部骨折症例)	
4	国際生活機能分類(ICF)の総論	
5	脳卒中症例:国際生活機能分類(ICF)を使った障害の把握	
6	脳卒中症例:国際生活機能分類(ICF)を使った障害の把握、グループワーク	
7	脳卒中症例:コアセットを使った障害の把握	
8	復習(国家試験に挑戦)	

【成績評価方法】

①筆記試験

※素点が6割以上で単位修得

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
理学療法概論 課題・動画を使ってエッセンスを学びとる 第1版 ICF 国際生活機能分類－国際障害分類改訂版－	庄本康治	羊土社 中央法規

【科目名】

理学療法障害学Ⅱ

平成31年度

分野	専門	配当年次	3年	開講期間	前後期	単位数	1
担当	赤松眞吾、他	時間数	45	回数	23	授業方法	講義・演習

授業の概要、到達目標

理学療法で扱う障害の概念や各疾患で起こる障害構造を理解する。

①器官・機能別の障害について説明できる

②器官・機能障害別の理学療法について説明できる

回数	講義内容	担当
1・2	理学療法総論	柏木宏彦
3・4	循環障害の理学療法	河村知範
5・6 7・8	呼吸障害の理学療法、パーキンソン病の理学療法、臨床研究のすすめ 代謝障害の理学療法	松尾善美
9・10	がんのリハビリテーションにおける理学療法	小林功
11・12 13・14	呼吸障害の理学療法、パーキンソン病の理学療法、臨床研究のすすめ 代謝障害の理学療法	松尾善美
15・16	骨・関節障害の理学療法	原典子
17・18	神経・筋障害の理学療法	植田能茂
19・20	脳障害の理学療法	田後裕之
21・22	スポーツ障害の理学療法	小柳磨毅
23・24	疼痛に対する理学療法	赤松眞吾
25・26	脊髄障害の理学療法	片岡愛美

【成績評価方法】

①出席点 ※素点が6割以上で単位修得

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
歩行を診観察から始める理学療法実践 PT・OT ビジュアルテキスト 内部障害 理学療法学 第1版	奈良勲. 松尾善美.	文光堂 羊土社

【科目名】						平成 31 年度	
理学療法研究概論							
分野	専門	配当年次	3 年	開講期間	前期	単位数	1
担当	治部哲也、小林功	時間数	15	回数	8	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
理学療法における研究活動の位置づけや方法論について系統的に学習する。 ①理学療法における研究の必要性・意義が説明できる ②研究倫理（オーサーシップ、研究不正などを含む）について説明できる ③利益相反について説明できる ④研究疑問に応じた研究デザインについて説明できる ⑤研究疑問に基づき、先行研究を検索できる							
回数	講義内容						備考
1	EZR を用いた統計解析①						治部
2	EZR を用いた統計解析②						治部
3	EZR を用いた統計解析③						治部
4	Single case design						小林
5	Randomized controlled Trial						小林
6	Systematic review Meta Analysis						小林
7	Cohort study Case control study Evidence Based Medicine						小林
8	Evidence Based Medicine						小林
【成績評価方法】							
①発表点（講義外に研究計画書作成のグループ活動を課す） ※素点 6 割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
資料配布							

【科目名】

理学療法評価総論Ⅰ－①

平成31年度

分野	専門	配当年次	1年	開講期間	後期	単位数	2
担当	旦 尚敏	時間数	20/60	回数	10/30	授業方法	実験・実習・実技

授業の概要、到達目標

理学療法評価総論Ⅰは、理学療法評価総論Ⅰ①(1年生/20時間)と理学療法評価総論Ⅰ②(1年生/40時間)2単位で構成される。理学療法における評価の概念や方法論などを総合的・系統的に学習する。また、関節運動の講義、可動域測定の実技を中心とした講義である。

- ①理学療法評価の目的と評価方法について説明できる
- ②理学療法評価に基づく治療計画立案までのプロセスが説明できる
- ③バイタルサインの測定が実施できる
- ④形態測定が実施できる

回数	講義内容	備考
1	理学療法評価とは(定義・目的など)	
2	理学療法評価とは(目標設定・Needの捉え方など)	
3	情報収集(直接的・間接的手段)	
4	検査・測定 Vital signs(総論、脈拍)	
5	検査・測定 Vital signs(血圧①)	
6	検査・測定 Vital signs(血圧②)	
7	検査・測定 Vital signs(呼吸・体温)	
8	検査・測定 形態測定(総論、周径①)	
9	検査・測定 形態測定(周径②、四肢長①)	
10	検査・測定 形態測定(四肢長②)	

【成績評価方法】

①筆記試験②実技試験

※筆記試験7割と実技試験3割を合算し6割以上で単位修得。再試験は筆記試験のみで6割以上を合格とする

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
理学療法評価学 第5版		金原出版

【科目名】

理学療法評価総論Ⅰ－②

平成31年度

分野	専門	配当年次	1年	開講期間	後期	単位数	2
担当	旦 尚敏	時間数	40/60	回数	20/30	授業方法	実験・実習・実技

授業の概要、到達目標

理学療法評価総論Ⅰは、理学療法評価総論Ⅰ①(1年生/20時間)と理学療法評価総論Ⅰ②(1年生/40時間)2単位で構成される。理学療法における評価の概念や方法論などを総合的・系統的に学習する。また、関節運動の講義、可動域測定の実技を中心とした講義である。

①関節可動域制限の程度と関連因子について説明できる

②関節可動域の測定を実施できる

回数	講義内容	回数	講義内容
1	ROM測定 総論	11	ROM測定 各論 膝関節屈曲/伸展
2	ROM測定 総論・各論 肩屈曲/伸展	12	ROM測定 各論 足関節底屈/背屈 足部内転/外転
3	ROM測定 各論 肩外転/内転	13	ROM測定 各論 足部内反し/外反し 母趾 MP・IP関節屈曲/伸展
4	ROM測定 各論 肩外旋/内旋 肩水平屈曲/水平伸展	14	ROM測定 各論 足趾 MP・PIP・DIP関節屈曲/伸展
5	ROM測定 各論 肘屈曲/伸展 前腕回内/回外	15	ROM測定 各論 頸部屈曲/伸展 頸部回旋 頸部側屈
6	ROM測定 各論 手関節掌屈/背屈 手関節橈屈/尺屈	16	ROM測定 各論 胸腰部屈曲/伸展 胸腰部回旋 胸腰部側屈
7	ROM測定 各論 母指橈側外転/内転 母指掌側外転/内転	17	ROM測定 各論 肩甲帯屈曲/伸展 肩甲帯挙上/下制
8	ROM測定 各論 母指 MP・IP関節屈曲/伸展 手指 MP・PIP・DIP関節屈曲/伸展	18	ROM測定 各論 ROM制限に対する検査法
9	ROM測定 各論 指外転/内転 母指対立	19	ROM測定 各論 総括・復習
10	ROM測定 各論 股関節屈曲/伸展	20	ROM測定 各論 膝関節屈曲/伸展

【成績評価方法】

①筆記試験②実技試験

※小テスト3割と実技試験7割を合算し6割以上で単位修得。再試験は実技のみとし6割以上で合格

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
資料配布		

【科目名】

理学療法評価総論Ⅱ (MMT)

平成 31 年度

分野	専門	配当年次	2 年	開講期間	前期	単位数	2
担当	宮崎 尚也	時間数	60	回数	30	授業方法	実験・実技・実習

授業の概要、到達目標

理学療法における評価の概念や方法論などを総合的・系統的に学習する。関節可動域測定、筋力テスト法について基本的な知識と技術を習得する。

①筋力の評価方法について説明できる

②筋力低下の程度と関連要因を把握する評価が実施できる

回数	講義内容	回数	講義内容
1	総論①	16	肩関節屈曲、肩関節伸展、肩関節外転
2	総論②、股関節屈曲	17	肩関節水平外転、肩関節水平内転
3	股関節屈曲・外転・膝屈曲位からの外旋	18	肩関節外旋、肩関節内旋
4	股関節伸展	19	肘関節屈曲、肘関節伸展
5	股関節外転、股関節屈曲位での外転	20	前腕回内、前腕回外
6	股関節内転、股関節外旋	21	手関節屈曲、手関節伸展
7	股関節内旋、膝関節屈曲	22	MP 関節屈曲、IP 関節屈曲、MP 関節伸展
8	膝関節伸展	23	指外転、指内転、母指 MP・IP 関節屈曲
9	足関節底屈、足関節背屈・内がえし	24	母指 MP・IP 関節伸展、母指外転、母指内転
10	足関節内がえし、足関節底屈・外がえし	25	対立動作、頭部・頸部・複合伸展
11	母趾・足趾 MP 屈曲、PIP・DIP 屈曲	26	頭部・頸部・複合屈曲、頭部回旋
12	母趾・足趾 MP・IP 伸展	27	骨盤挙上、体幹屈曲、体幹回旋、安静吸気
13	肩甲骨外転・上方回旋、肩甲骨挙上	28	粗大筋力
14	肩甲骨内転、肩甲骨下制・内転	29	脳神経支配筋のテスト①
15	肩甲骨内転・下方回旋、肩甲骨下制	30	脳神経支配筋のテスト②

【成績評価方法】

①筆記試験②実技試験

※①②それぞれで 6 割以上。筆記試験 4 割、実技試験 6 割で素点を算出。素点が 6 割以上で単位修得

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
新・徒手筋力検査法 原著第 9 版	Helen J. Hislop	協同医書出版

【科目名】						平成 31 年度	
理学療法評価各論Ⅰ							
分野	専門	配当年次	2 年	開講期間	前期	単位数	1
担当	旦 尚敏	時間数	30	回数	15	授業方法	実験・実習・実技
授業の概要、到達目標							
理学療法に関連した検査・測定を中心に、各種疾患に伴う障害の評価が行えるように学習する。							
①疼痛の程度と関連要因を把握する評価が実施できる							
②反射異常の程度と関連要因を把握する評価が実施できる							
③感覚異常の程度と関連要因を把握する評価が実施できる							
④運動麻痺の程度と関連要因を把握する評価が実施できる							
⑤意識・精神障害の程度と関連要因を把握する評価が実施できる							
回数	講義内容						備考
1	理学療法評価、評価プロセス、尺度、感度、特異度、尤度比、カットオフ値						
2	痛みの診かた（実技含む）、痛みの分類、痛みの検査、評価スケール（VAS, NRS, FRS, MPQ）						
3	反射の診かたⅠ（実技含む）、腱反射の意義、判定、記録						
4	反射の診かたⅡ（実技含む）、表在反射の意義、判定、記録						
5	反射の診かたⅢ（実技含む）、病的反射の意義、判定、記録						
6	筋緊張の診かたⅠ（実技含む）、異常筋緊張（痙縮、硬直、筋緊張低下）、筋緊張の検査Ⅰ						
7	筋緊張の診かたⅡ（実技含む）、筋緊張の検査Ⅱ、評価スケール（AS, MAS）						
8	感覚の診かたⅠ（実技含む）、感覚の分類、デルマトームと末梢感覚神経支配						
9	感覚の診かたⅡ（実技含む）、感覚検査の意義と原則、表在感覚検査						
10	感覚の診かたⅢ（実技含む）、深部感覚検査、複合感覚検査						
11	運動麻痺の診かたⅠ（実技含む）、運動麻痺の分類、運動麻痺の回復						
12	運動麻痺の診かたⅡ（実技含む）、運動麻痺の検査（各種テスト）						
13	運動麻痺の診かたⅢ（実技含む）、評価スケール（BRST, 12 段階片麻痺回復グレード法）						
14	意識・精神機能の診かたⅠ						
15	意識・精神機能の診かたⅡ						
【成績評価方法】							
①筆記試験②実技試験							
※筆記試験と実技試験の合算し、素点が 6 割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
ベッドサイドの神経の診かた 改訂 18 版				田崎 義昭 著		南山堂	
理学療法テキスト理学療法評価学Ⅰ・Ⅱ 15 レクチャーシリーズ						中山書店	

【科目名】						平成 31 年度	
理学療法評価各論Ⅱ							
分野	専門	配当年次	2 年	開講期間	後期	単位数	1
担当	旦 尚敏	時間数	30	回数	15	授業方法	実験・実習・実技
授業の概要、到達目標							
理学療法に関連した検査・測定を中心に、各種疾患に伴う障害の評価が行えるように学習する。							
①脳神経障害の程度と関連要因を把握する評価が実施できる							
②不随意運動の程度と関連要因を把握する評価が実施できる							
③高次脳機能障害の程度と関連要因を把握する評価が実施できる							
④整形外科的検査法が実施できる							
⑤協調運動障害の程度と関連要因を把握する評価が実施できる							
⑥バランス機能障害の程度と関連要因を把握する評価が実施できる							
⑦関節機能障害の程度と関連要因を把握する評価が実施できる							
回数	講義内容						備考
1	脳神経の診かた Ⅰ						
2	脳神経の診かた Ⅱ						
3	脳神経の診かた Ⅲ						
4	脳神経の診かた Ⅳ						
5	不随意運動の診かた						
6	高次脳機能障害の診かた Ⅰ						
7	高次脳機能障害の診かた Ⅱ						
8	整形外科的検査法 Ⅰ						
9	整形外科的検査法 Ⅱ						
10	協調性の診かた Ⅰ						
11	協調性の診かた Ⅱ						
12	バランス機能の診かた Ⅰ						
13	バランス機能の診かた Ⅱ						
14	関節の診かた Ⅰ						
15	まとめ、総括						
【成績評価方法】							
①筆記試験							
※素点が6割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
ベッドサイドの神経の診かた 改訂 18 版				田崎 義昭 著		南山堂	
理学療法テキスト理学療法評価学Ⅰ・Ⅱ 15 レクチャーシリーズ						中山書店	

【科目名】

基礎運動療法学－①（前期）

平成 31 年度

分野	専門	配当年次	1 年	開講期間	前後期	単位数	2
担当	新田 章貴	時間数	30/60	回数	15/30	授業方法	実験・実習・実技

授業の概要、到達目標

各種の障害に対して適切な運動療法が行えるよう、基礎的知識と技術について学習する。前期は骨の触診と下肢の筋について、後期は下肢・上肢筋・体幹の触診について学習する。

①骨のランドマークを触れることができる

②下肢筋について他筋と間違えることなく触れることができる

回数	講義内容	回数	講義内容
1	総論	11	大腿部：大腿骨
2	上腕部：上腕骨	12	膝関節周辺 大腿骨 膝蓋骨
3	前腕部：尺骨・橈骨	13	膝関節周辺 脛骨 腓骨
4	胸部・肩甲帯周囲：肩甲骨	14	足関節および足部周辺
5	胸部・肩甲帯周囲：鎖骨・胸骨	15	足関節および足部周辺
6	手関節・手部：手根骨	16	下肢の骨触診復習
7	手関節・手部：手根骨	17	股関節に関わる筋
8	手関節・手部：中手骨・指骨	18	股関節に関わる筋
9	上肢の骨触診復習	19	膝関節に関わる筋
10	骨盤	20	膝関節に関わる筋

【成績評価方法】

①筆記試験、②実技試験

※素点が 6 割以上で単位修得

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
運動療法のための機能解剖学的触診技術(上肢・下肢体幹) 改訂第2版		Medical View

【科目名】

基礎運動療法学－②（後期）

平成 31 年度

分野	専門	配当年次	1 年	開講期間	前後期	単位数	2
担当	新田 章貴	時間数	30/60	回数	15/30	授業方法	実験・実習・実技

授業の概要、到達目標

各種の障害に対して適切な運動療法が行えるよう、基礎的知識と技術について学習する。前期は骨の触診と下肢の筋について、後期は下肢・上肢筋・体幹の触診について学習する。

①上肢筋について他筋と間違えることなく触れることができる

②体幹の骨ランドマークを触れることができる

回数	講義内容	回数	講義内容
1	足関節および足部に関わる筋	11	肘関節複合体に関連する靭帯
2	足関節および足部に関わる筋	12	手関節および手指に関わる筋
3	下肢の靭帯	13	手関節および手指に関わる筋
4	下肢の筋触診復習	14	中手指節関節に関連する靭帯
5	肩甲上腕関節に関わる筋	15	上肢の筋触診復習
6	肩甲胸郭関節に関わる筋	16	胸郭に関連する諸組織
7	肩甲胸郭関節に関わる筋	17	胸郭に関連する諸組織
8	肩関節複合体に関連する靭帯	18	脊柱に関連する諸組織
9	肘関節に関わる筋	19	脊柱に関連する諸組織
10	肘関節に関わる筋	20	総復習

【成績評価方法】

①筆記試験、②実技試験

※素点が 6 割以上で単位修得

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
運動療法のための機能解剖学的触診技術(上肢・下肢体幹) 改訂第2版		Medical View

【科目名】						平成 31 年度	
運動療法学Ⅰ							
分野	専門	配当年次	Ⅰ 年	開講期間	後期	単位数	Ⅰ
担当	赤松 眞吾	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
各種の障害に対して適切な運動療法が行えるよう、基礎的知識と技術について学習する。 ①関節可動域制限に対する運動療法について説明できる ②筋力低下に対する運動療法について説明できる ③筋持久力低下に対する運動療法について説明できる ④全身持久力低下に対する運動療法について説明できる ⑤協調運動障害に対する運動療法について説明できる ⑥筋緊張異常に対する運動療法について説明できる							
回数	講義内容						備考
1	総論①						
2	総論②						
3	関節可動域運動①						
4	関節可動域運動②						
5	関節可動域運動③						
6	関節可動域運動④						
7	筋力増強運動・筋持久力運動①						
8	筋力増強運動・筋持久力運動②						
9	筋力増強運動・筋持久力運動③						
10	筋力増強運動・筋持久力運動④						
11	全身調整運動①						
12	全身調整運動②						
13	協調性運動①						
14	協調性運動②						
15	神経・筋再教育						
【成績評価方法】							
①筆記試験 ※素点が 6 割以上で単位修得。							
【使用教科書】							
書名					著者名		発行所
標準理学療法学専門分野 運動療法学総論 第 3 版							医学書院

【科目名】

運動療法学Ⅱ

平成31年度

分野	専門	配当年次	1年	開講期間	後期	単位数	2
担当	桶田 勝文	時間数	60	回数	30	授業方法	実験・実習・実技

授業の概要、到達目標

各種の障害に対して適切な運動療法が行えるよう、基礎的知識と技術について学習する。

- ①関節可動域制限に対する運動療法を実施できる
- ②筋力低下に対する運動療法を実施できる
- ③筋持久力低下に対する運動療法を実施できる
- ④全身持久力低下に対する運動療法を実施できる
- ⑤協調運動障害に対する運動療法を実施できる
- ⑥筋緊張異常に対する運動療法を実施できる

回数	講義内容	備考
1・2	他動運動① 上肢関節	
3・4	他動運動② 下肢関節	
5・6	自動運動、自動介助運動	
7・8	副運動①	
9・10	副運動②、伸張運動①	
11・12	伸張運動②	
13・14	関節可動域運動① 上肢	
15・16	関節可動域運動② 下肢	
17・18	抵抗運動 上肢	
19・20	抵抗運動 下肢	
21・22	筋力増強運動	
23・24	協調性訓練抵	
25	筋持久力運動	
26	リラクセーション	
27・28	訓練治療体操抵	
29・30	全身調整訓練	

【成績評価方法】

①実技試験

※素点が6割以上で単位修得。

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
標準理学療法学専門分野 運動療法学総論 第3版		医学書院

【科目名】

運動療法学Ⅲ―①

平成 31 年度

分野	専門	配当年次	2 年	開講期間	前期	単位数	1
担当	赤松 眞吾	時間数	8/30	回数	4/15	授業方法	実験・実習・実技

授業の概要、到達目標

神経生理学を基礎とした技術について体系的に理解する。

①神経生理学的アプローチについて説明できる

②神経筋再教育の方法について述べることができる

回数	講義内容	備考
1	神経筋再教育の定義、歴史的変遷 神経生理学的アプローチ (NPA) の諸家	
2	運動麻痺の捉え方、回復過程 治療条件、禁忌・注意点	
3	治療原則、運動の賦活①、運動の賦活②	
4	筋力増強訓練 協調性改善・持久性改善・運動速度の改善など 動作介助を用いた神経筋再教育	

【成績評価方法】

①筆記試験

※素点が 6 割以上で単位修得

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
資料配布		

【科目名】 運動療法学Ⅲ―②						平成 31 年度	
分野	専門	配当年次	2 年	開講期間	前期	単位数	1
担当	赤松眞吾、日浦伸祐 吉田美由紀	時間数	22/30	回数	11/15	授業方法	実験・実習・実技
授業の概要、到達目標							
神経生理学を基礎とした技術について体系的に理解する ①AKA について説明できる ②ボバース概念について説明できる ③PNF について説明できる							
回数	講義内容						備考
1・2	«AKA» 【講義・実技】MP、PIP、DIP joint、橈月関節、橈舟関節、舟大菱形・舟小菱形・第 2CM 関節、[構成運動] 手指、手関節						赤松
3・4	«AKA» 【実技】肩鎖関節、肩甲上腕関節、腕尺関節、腕橈関節、[構成運動] 肩、肘、前腕						赤松
5・6	«AKA» 【実技】距腿関節、距船関節、距骨下関節、踵立方関節、第 2TM・MP・IP 関節 [構成運動] 足指、足関節						赤松
7・8	«AKA» 【実技】股関節、膝関節 [構成運動] 股関節、膝関節、ANT、 【講義】胸鎖関節、肩関節側方、下方けん引						赤松
9・10 11・12	«ボバース概念» ボバース概論、姿勢・運動制御理論、実技						日浦
13・14 15・16	«ボバース概念» CVA の臨床像と問題点の捉え方 治療場面解説、実技（歩行、立位バランス）						日浦
17・18 19・20 21・22 23・24	«PNF» PNF 講義(哲学・基本的原理・手段・テクニックについて) PNF 実技(グループワーク、パターン訓練) PNF 実技(グループワーク、パターン訓練、ADLトレーニング) 症例紹介、実技、まとめ						吉田
【成績評価方法】							
①筆記試験 ※素点が 6 割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
AKA 関節運動学的のアプローチ博田法 第 2 版 資料配布				博田 節夫 編著		医歯薬出版	

【科目名】						平成 31 年度	
物理療法学Ⅰ							
分野	専門	配当年次	2 年	開講期間	前期	単位数	1
担当	中谷 秀美	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
適切な物理療法が行えるよう、各療法について定義・目的・効果と適応・手技・リスク管理などを中心に学習する。							
①物理療法の種類を説明できる							
②物理療法（温熱療法、電磁波療法、寒冷療法、マッサージ）の適応と禁忌が説明できる							
③物理療法（温熱療法、電磁波療法、寒冷療法、マッサージ）に実施方法について説明できる							
④物理療法（温熱療法、電磁波療法、寒冷療法、マッサージ）が実施できる							
回数	講義内容						備考
1	物理療法総論						
2	リスク管理						
3	温熱療法①、温熱療法とは						
4	温熱療法②、熱量、熱の分類						
5	温熱療法③、温熱による生体反応						
6	温熱療法④、ホットパック						
7	温熱療法⑤、パラフィン療法						
8	電磁波療法①、総論						
9	電磁波療法②						
10	電磁波療法③、超短波療法、光線療法（紫外線・赤外線）						
11	温熱療法 実技① 課題①オリエンテーション作成②3 人に実施③3 つ経験						
12	実技②						
13	寒冷療法①						
14	寒冷療法②（コールドスプレー、極低温療法）、アイシングマッサージ実技						
15	マッサージ 総論、マッサージ 実技						
【成績評価方法】							
①筆記試験②課題点③実技試験							
※素点が 6 割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 物理療法学・実習				日高正巳・玉木 彰		中山書店	

【科目名】						平成 31 年度	
物理療法学Ⅱ							
分野	専門	配当年次	2 年	開講期間	後期	単位数	1
担当	新田 章貴	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
適切な物理療法が行えるよう、各療法について定義・目的・効果と適応・手技・リスク管理などを中心に学習する。							
①物理療法の種類を説明できる							
②物理療法（水治療法、圧迫療法、牽引療法、超音波療法、電気療法）の適応と禁忌が説明できる							
③物理療法（水治療法、圧迫療法、牽引療法、超音波療法、電気療法）に実施方法について説明できる							
④物理療法（水治療法、圧迫療法、牽引療法、超音波療法、電気療法）が実施できる							
回数	講義内容						備考
1	物理療法総論、定義、目的、炎症・疼痛について						
2	水治療法① 物理的特性、生理学的作用、各種治療法						
3	水治療法② 水治療法実習（過流浴、交代浴）						
4	圧迫療法 実習						
5	圧迫療法① 効果、浮腫・DVTの病態、適応、禁忌						
6	圧迫療法② 治療技術（弾性包帯、マッサージなど）						
7	牽引療法 歴史、効果、種類、頸椎・腰椎牽引の設定、持続的他動運動（CPM）						
8	超音波療法・牽引療法 実習						
9	超音波療法・牽引療法 実習						
10	電気診断法① 強さ-時間曲線、電気診断法② 神経伝導速度						
11	電気療法① 電気生理学、低周波療法の効果 治療手順（その 1）						
12	電気療法① 電気生理学、低周波療法の効果 治療手順（その 2）						
13	電気療法② 各種電気療法（TENS、FESなど）、電気療法デモ						
14	電気療法③ 実習						
15	電気療法③ 実習						
【成績評価方法】							
①筆記試験							
※素点が 6 割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
物理療法学 第 2 版：松澤 正：金原出版				上杉雅之監修		医歯薬出版	

【科目名】						平成 31 年度	
義肢学							
分野	専門	配当年次	2 年	開講期間	後期	単位数	1
担当	桶田 勝文	時間数	45	回数	23	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
義肢に関する基礎的知識、適合判定、訓練について学習する。							
①義肢の種類を説明できる							
②義肢の適合性の確認について説明できる							
③義肢のアライメント調整ができる							
回数	講義内容						備考
1	切断患者に対するリハビリテーション、切断について、切断から生じる Impairment						
2	四肢切断者に対する断端管理						
3	義足総論、下腿義足（ソケットと bench alignment）						
4	足継手						
5	下腿義足（static alignment, daynamic alignment）						
6	下腿義足（static alignment, daynamic alignment）						
7	大腿義足（ソケット）						
8	膝継手						
9	大腿義足（bench alignment, daynamic alignment）						
10	大腿義足（static alignment, daynamic alignment）						
11	大腿義足（daynamic alignment）						
12	大腿義足（daynamic alignment）						
13	股義足						
14	サイム義足、膝義足、足義足						
15	下肢切断患者における評価（検査・測定）						
16	下肢切断患者における評価（検査・測定）						
17	下肢切断における理学療法						
18	下肢切断における理学療法（模擬義足）						
19	下肢切断における理学療法（模擬義足）						
20	まとめ 症例提示						
21	Ⅰ 義手、①上肢の切断・各種義手、②体験義手装着訓練、③実例紹介 Ⅱ 最新の知見を交えて、①義肢肢の作製、						
【成績評価方法】							
①筆記試験							
※素点が 6 割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 義肢学				石川 朗		中山書店	

【科目名】						平成 31 年度	
装具学							
分野	専門	配当年次	2 年	開講期間	後期	単位数	1
担当	宮崎 尚也	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
装具に関する基礎的知識、適合判定、訓練について学習する。 ①装具の種類を説明できる ②装具の適合性について説明できる ③福祉用具の適用について説明できる ④車椅子の調整ができる							
回数	講義内容						備考
1	総論						
2	装具の構成						
3	短下肢装具						
4	長下肢装具						
5	靴型装具						
6	下肢装具のチェックアウト						
7	下肢装具のチェックアウト<実習>						
8	体幹装具						
9	上肢装具						
10	自助具作成<実習>						
11	歩行補助具						
12	脳卒中片麻痺の装具						
13	整形外科疾患の装具						
14	関節リウマチの装具						
15	対麻痺・小児の装具						
【成績評価方法】							
①筆記試験 ※素点が 6 割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
理学療法学テキスト 装具学				石川 朗		中山書店	

【科目名】						平成 31 年度	
日常生活活動学総論							
分野	専門	配当年次	2 年	開講期間	前期	単位数	1
担当	桶田 勝文	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
日常生活活動に関する適切な評価、及び指導の基本的事項について学習する。 ①日常生活活動について説明できる ②日常生活活動の評価を実施できる ③基本的動作訓練が実施できる							
回数	講義内容						備考
1	ADL 総論・概念						
2	動作訓練 総論、動作訓練① 寝返り						
3	動作訓練②、起き上がり						
4	動作訓練③、座位～膝立ち～立ち上がり						
5	動作訓練④、移乗（ベッド～車椅子）						
6	動作訓練⑤、歩行介助 1						
7	動作訓練⑥、歩行介助 2						
8	動作訓練⑦、（①～⑦が終わってれば総復習）						
9	杖・松葉杖、名称について、段差昇降、車椅子について、車椅子の名称（講義）						
10	杖・松葉杖 杖の合わせ方、段差昇降、（実技）						
11	ADL 評価（尺度、手順、方法など）						
12	ADL 評価（各評価表、FIM 課題提出）						
13	ADL 評価（テストの実際：FIM）						
14	ADL 評価（セルフケア動作について・動作分解）						
15	ADL 練習問題、ADL 評価演習						
【成績評価方法】							
①筆記試験、②実技試験 ※素点が 6 割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第 4 版 姿勢と動作 第 3 版				奈良 勲 齋藤宏		医学書院 メヂカルフレンド社	

【科目名】						平成 31 年度	
日常生活活動学各論							
分野	専門	配当年次	2 年	開講期間	後期	単位数	1
担当	石川定、和田善行	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
日常生活活動に関する適切な評価、及び指導の基本的事項について学習する。 ①脳障害患者の日常生活活動を指導できる ②一側下肢障害患者の日常生活活動を指導できる ③脊髄障害患者の日常生活活動を指導できる ④呼吸器障害患者の日常生活活動を指導できる ⑤関節リウマチ患者の日常生活活動を指導できる							
回数	講義内容						備考
1	講義 理学療法の目標、ADL 向上のアプローチ、ADL の実用性、各疾患の ADL の特徴、ADL 訓練について						
2	脳卒中片麻痺の ADL (講義) 脳卒中患者のこれから、筋緊張異常によって生じる障害因子、脳卒中片麻痺患者の動画観察						
3	脳卒中片麻痺の ADL (実技)						
4	脳卒中片麻痺の ADL (実技)						
5	脳卒中片麻痺の ADL (実技)						
6	一側下肢障害の ADL (講義)						
7	一側下肢障害の ADL (実技)						
8	一側下肢障害の ADL (実技)						
9	脊髄損傷の ADL (講義)						
10	脊髄損傷の ADL (実技)						
11	脊髄損傷の ADL (実技)						
12	呼吸器疾患の ADL (講義)						
13	呼吸器疾患の ADL (実技)						
14	関節リウマチの ADL (講義)						
15	関節リウマチの ADL (実技)						
【成績評価方法】							
①筆記試験 ※素点が 6 割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第 5 版 姿勢と動作 第 3 版				奈良 勲 齋藤宏		医学書院 メヂカルフレンド社	

【科目名】						平成 31 年度	
理学療法治療各論 I							
分野	専門	配当年次	2 年	開講期間	前期	単位数	1
担当	土井敏之、小泉希久也 小林功	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
脳障害の理学療法に対する知識・技術の統合が図れるよう、総合的・系統的に学習する。							
①脳障害にかかる理学療法について説明できる							
②脳障害にかかる理学療法について実施できる							
回数	講義内容						備考
1・2	脳疾患・理学療法・リハビリテーションについて知る、脳疾患の障害像、代表的な脳疾患、脳疾患患者に対する運動療法の歴史、神経筋再教育、神経生理学的アプローチ						土井
3・4	脳の異常による機能障害						土井
5・6	基本的動作を阻害する機能障害と異常歩行、下垂足・尖足と装具（AFO・弾性包帯実技）、歩行介助の基本動作（動作を阻害しないという事）						土井
7・8	急性期・回復期の治療・訓練の目的、評価の流れ・手順、機能障害に対する治療方法と治療技術、急性期・回復期の治療						小泉
9・10	脳卒中に対する理学療法（実技）、坐位の介助、立ち上がりの介助、片脚立位、移乗、歩行、ANT の基礎						小泉
11	ADL と総合評価						小林
12	運動機能検査						小林
13	高次脳機能検査						小林
14	画像からみた脳の障害と可能性						小林
15	理論と理学療法						小林
【成績評価方法】							
①筆記試験70% ②レポート30%							
※素点が 6 割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
ベッドサイドの神経の診かた 改訂 18 版				田崎 義昭		南山堂	
AKA 関節運動学的アプローチ博田法 第 2 版				博田 節夫		MDP	
脳卒中理学療法の理論と技術 改訂第 2 版				原寛美		Medical View	

【科目名】						平成 31 年度	
理学療法治療各論Ⅱ							
分野	専門	配当年次	2 年	開講期間	後期	単位数	1
担当	高島 正治	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
脳性小児麻痺を含む小児期の障害に対する理学療法の知識・技術を体系的に学習する。							
①小児の障害にかかる理学療法について説明できる							
②小児の障害にかかる理学療法について実施できる							
回数	講義内容						備考
1	人間発達（運動）						
2	人間発達（姿勢反応、反射、摂食、知的、認知など）						
3	脳性麻痺の概略						
4	痙直型脳性麻痺①						
5	痙直型脳性麻痺②						
6	痙直型脳性麻痺③						
7	アトローゼ型脳性麻痺						
8	重症心身障害						
9	小児整形疾患						
10	デュシャンヌ型筋ジストロフィー症						
11	ダウン症候群						
12	低出生体重児・ハイリスク児						
13	発達障害						
14	小児理学療法の特殊性						
15	資料映像視聴（脳性麻痺）、復習（試験対策）						
【成績評価方法】							
①筆記試験							
※素点が 6 割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
イラストでわかる小児理学療法				上杉雅之監修		医歯薬出版	

【科目名】						平成 31 年度	
理学療法治療各論Ⅲ							
分野	専門	配当年次	2 年	開講期間	前期	単位数	1
担当	新田 章貴	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
脊髄損傷の理学療法に対する知識・技術の統合が図れるよう、総合的・系統的に学習する。							
①脊髄障害にかかる理学療法について説明できる							
②脊髄障害にかかる理学療法について実施できる							
回数	講義内容						備考
1	脊髄損傷総論、専門用語、脊髄の解剖・機能生理①、疫学・脊柱・脊髄の解剖						
2	脊髄の解剖・機能生理②、血管系・伝導路						
3	脊髄の解剖・機能生理③、自律神経・反射、脊髄損傷発生分類と病態 発症機序、経過、完全・不全損傷						
4	脊髄不全損傷の特殊型①、脊髄半側損傷・後部損傷（グループワーク）						
5	脊髄不全損傷の特殊型②、中心性障害・前部障害、脊髄損傷障害学①、運動麻痺・感覚麻痺・自律神経障害、他						
6	脊髄損傷障害学②、排便障害・呼吸機能障害・性機能障害・二次障害						
7	理学的評価①、総論、高位診断（感覚検査）						
8	理学的評価②、高位診断（感覚・筋力検査）、脊髄損傷の理学的評価③、高位診断（反射）、評価分類、ADL						
9	治療総論、病期別アプローチ、全身調整訓練 血管運動神経再教育						
10	呼吸理学療法①、視診・触診・聴診、深呼吸訓練・呼吸介助・排痰介助、胸郭拡張訓練（肋骨の捻転）						
11	呼吸理学療法②、胸郭拡張訓練（体幹捻転・側屈・胸郭過伸展）、関節可動域訓練、拘縮好発肢位・注意点						
12	神経筋再教育、基本的動作訓練、CKC と OKC、座位・長座位保持、寝返り・起き上がり、Push Up 動作						
13	車椅子動作訓練、基本的な車椅子動作の考え方、除圧法・キャスター挙げ・段差昇降、座位別使用車椅子						
14	自己管理指導、Self-ROM など、リフティング、床上動作・起き上がり・長座位への起き上がり						
15	装具・自助具、機器入力インターフェース、社会復帰・スポーツ、社会資源・スポーツ活動 まとめ 他						
【成績評価方法】							
①筆記試験							
※素点が 6 割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
病気がみえる⑦脳・神経 第 2 版				細田多穂 細田多穂		MEDIC MEDIA	
理学療法ハンドブック 改訂第 4 版 第 3 巻						協同医書出版	
理学療法ハンドブック 改訂第 4 版 第 4 巻						協同医書出版	

【科目名】						平成 31 年度	
理学療法治療各論Ⅳ							
分野	専門	配当年次	2 年	開講期間	前期	単位数	1
担当	田後 裕之、他	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
骨・関節疾患の理学療法に対する知識・技術の統合が図れるよう、総合的・系統的に学習する。							
①骨関節障害にかかる理学療法について説明できる							
②骨関節障害にかかる理学療法について実施できる							
回数	講義内容						備考
1・2	運動器系の疾患に対する理学療法（総論） 総論、疾患分類、機能障害、関節運動学、治療目的と治療技術、理学療法の流れ						
3・4	骨折に対する理学療法 ①概要-定義・分類・治療法等 ②骨折の理学療法評価						
5・6	骨折に対する理学療法 治療、各論、高齢者の骨折						
7・8	有痛性疾患に対する理学療法 痛みに対する概要、有痛性疾患とは、有痛性疾患に対する評価・治療						
9・10	末梢神経損傷に対する理学療法 理学療法の評価手順、各論、グループワーク（腓骨神経マヒを例にして）						
11・12	外傷性関節損傷の理学療法 各定義と原則、理学療法						
13・14	関節疾患の理学療法 RA・OA の理学療法						
15・16	環境整備、介助（実技含む） 起居、移乗動作、介助、杖に関する実習、講義、質疑応答						
【成績評価方法】							
①筆記試験							
※素点が 6 割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
標準整形外科学 第 12 版				鳥巢 岳彦		医学書院	

【科目名】						平成 31 年度	
理学療法治療各論Ⅴ							
分野	専門	配当年次	2 年	開講期間	後期	単位数	1
担当	赤松 眞吾	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
神経・筋障害の理学療法に対する知識・技術の統合が図れるよう、総合的・系統的に学習する。							
①理学療法にかかる一般的神経筋疾患について説明できる							
②神経・筋障害にかかる理学療法について説明できる							
③神経・筋障害にかかる理学療法について実施できる							
回数	講義内容						備考
1	総論① 理学療法とは？						
2	総論② 理学療法の歴史、医学的リハビリテーション、物理医学とリハ、疾病と障がい						
3	総論③ 脳障害について						
4	各論① パーキンソン病に対する PT①						
5	各論② パーキンソン病に対する PT②						
6	各論③ パーキンソン病に対する PT③						
7	各論④ パーキンソン病に対する PT④						
8	各論⑤ SCD に対する PT①						
9	各論⑥ MS に対する PT①、SCD に対する PT②						
10	各論⑦ MS に対する PT②、SCD に対する PT③						
11	各論⑧ SCD に対する PT①						
12	各論⑨ SCD に対する PT②						
13	各論⑨ 筋ジスに対する PT①						
14	各論⑩ 筋ジスに対する PT②						
15	各論⑪ グランバレー症候群に対する PT						
【成績評価方法】							
①筆記試験							
※素点が 6 割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
神経難病領域のリハビリテーション実践アプローチ				小森哲夫		メジカルビュー	

【科目名】						平成 31 年度	
理学療法治療各論Ⅵ							
分野	専門	配当年次	2 年	開講期間	後期	単位数	1
担当	増田 崇	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
内臓障害の理学療法に対する知識・技術の統合が図れるよう、総合的・系統的に学習する。 ①内部障害にかかる理学療法について説明できる ②内部障害にかかる理学療法について実施できる							
回数	講義内容						備考
1	呼吸・循環・代謝総論						
2	呼吸器系の基礎知識（解剖・生理）						
3	呼吸器系の評価・治療 1（理学的所見）						
4	呼吸器系の評価・治療 2（理学的所見）						
5	呼吸器系の評価 3（各種検査所見）						
6	吸引に必要な基礎知識（ガイドライン・標準予防策）						
7	吸引実習 1						
8	吸引実習 2						
9	心臓の解剖生理、疾患総論						
10	心臓リハビリテーション						
11	心電図 1						
12	心電図 2						
13	代謝疾患総論						
14	糖尿病のリハビリテーション						
15	まとめ 1						
【成績評価方法】							
①筆記試験 ※素点が 6 割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
15 レクチャーシリーズ 内部障害理学療法学 呼吸				石川朗ほか		中山書店	
15 レクチャーシリーズ 内部障害理学療法学 循環・代謝				石川朗ほか		中山書店	

【科目名】						平成31年度	
理学療法治療各論Ⅶ							
分野	専門	配当年次	3年	開講期間	前期	単位数	1
担当	旦 尚敏	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
スポーツ障害の理学療法に対する知識・技術の統合が図れるよう、総合的・系統的に学習する。 ①スポーツ障害にかかる理学療法について説明できる ②スポーツ障害にかかる理学療法について実施できる							
回数	講義内容						備考
1	スポーツ障害総論						
2	足関節外側側副靱帯損傷の病態と治療①						
3	足関節外側側副靱帯損傷の病態と治療②						
4	ACL損傷に対する理学療法①						
5	ACL損傷に対する理学療法②						
6	スポーツに特有な足部疾患とその対応①						
7	スポーツに特有な足部疾患とその対応②						
8	ランニング動作に関連した下腿・足部の障害①						
9	ランニング動作に関連した下腿・足部の障害②						
10	膝関節周囲のスポーツ障害①						
11	膝関節周囲のスポーツ障害②						
12	投球障害肩と理学療法Ⅰ						
13	投球障害肩と理学療法Ⅱ						
14	肘関節周囲のスポーツ障害						
15	肘関節周囲のスポーツ障害						
【成績評価方法】							
①筆記試験 ※素点が6割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
資料配布							

【科目名】						平成 31 年度	
理学療法治療各論Ⅷ							
分野	専門	配当年次	2 年	開講期間	後期	単位数	1
担当	櫻井 公統	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
老年期障害の理学療法に対する知識・技術の統合が図れるよう、総合的・系統的に学習する。							
①老年期障害にかかる理学療法について説明できる							
②老年期障害にかかる理学療法について実施できる							
回数	講義内容						備考
1・2	医療面接について/医療面接演習						
3・4	社会情勢/介護保険について						
5・6	老人の心理/身体的特性/高齢者の転倒						
7・8	認知症高齢者のリハビリテーション						
9・10	住環境・住宅改修について						
11・12・13	フィジカルアセスメント						
14・15	介護予防について 介護予防演習						
【成績評価方法】							
①筆記試験、②実技試験							
※素点が 6 割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
資料配布							

【科目名】						平成31年度	
理学療法治療演習							
分野	専門	配当年次	2年	開講期間	後期	単位数	1
担当	小林 功	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
各障害に対する知識・技術の統合を図ることを学習目標とする。 ①骨関節障害にかかる理学療法プログラムを立案できる ②脳障害にかかる理学療法プログラムを立案できる ③神経・筋障害にかかる理学療法プログラムを立案できる ④脊髄障害にかかる理学療法プログラムを立案できる ⑤内部障害にかかる理学療法プログラムを立案できる							
回数	講義内容						備考
1	変形性膝関節症						
2	変形性膝関節症(人工膝関節全置換術前後)						
3	変形性股関節症(人工股関節全置換術前後)						
4	大腿骨頸部骨折(人工骨頭置換術後)						
5	腰部脊柱管狭窄症(除圧固定術後)						
6	膝前十字靱帯損傷(再建術後)						
7	足関節捻挫						
8	脳梗塞(右半球・急性期)						
9	脳梗塞(左半球・回復期)						
10	脳出血(小脳・急性期)						
11	パーキンソン病						
12	多発性硬化症						
13	不全脊髄損傷						
14	慢性閉塞性肺疾患(COPD)						
15	急性心筋梗塞						
【成績評価方法】							
①筆記試験 ※素点が6割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
PT 症例レポート赤ペン添削ビフォー&アフター				相澤純也		羊土社	

【科目名】						平成 31 年度	
生活環境論							
分野	専門	配当年次	2 年	開講期間	後期	単位数	2
担当	出口 寛子	時間数	60	回数	30	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
患者・障害者の生活環境について、リハビリテーションにおける評価・治療計画、住宅改造等を学習する。 ①バリアフリーの概念について説明できる ②バリアフリーに関係する法制度について説明できる ③福祉住環境について説明できる ④住宅改造について立案できる							
回数	講義内容						備考
1・2	ガイダンス・ユニバーサルデザインと生活環境						
3・4	住まいの安全・安心① 住生活空間のデザイン						
5・6	住まいの安全・安心② 住空間のデザイン						
7・8	住まいの安全・安心③ 都市空間のデザイン						
9・10	住まいの安全・安心④ 生活環境の改善にむけて						
11・12	情報・通信と生活						
13・14	色と身体機能の特性						
15・16	生活環境音と温熱環境について						
17・18	人体と生活環境の寸法特性						
19・20	生活行為と住環境① 食生活						
21・22	生活行為と住環境② 集住生活						
23・24	生活行為と住環境③ 睡眠・排泄・入浴						
25・26	福祉住環境コーディネート① 平面計画						
27・28	福祉住環境コーディネート② 内装計画						
29・30	福祉住環境コーディネート③ プレゼンテーション						
【成績評価方法】							
①筆記試験 ※素点が 6 割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
講義資料							

【科目名】						平成 31 年度	
地域理学療法学							
分野	専門	配当年次	3 年	開講期間	前期	単位数	1
担当	複数名	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
地域における理学療法の定義、位置づけ、ならびに地域理学療法の展開、また社会資源の活用なども学習する。							
①地域理学療法における理学療法士の役割について説明できる							
②入所施設における理学療法について説明できる							
③通所施設における理学療法について説明できる							
④訪問における理学療法について説明できる							
⑤地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割について説明できる							
⑥地域における多職種連携について説明できる							
回数	講義内容						備考
1・2	地域理学療法概論						
3・4	人間関係（聞く技術・話す技術）・治療者の役割						
5・6	評価						
7・8	連携（急性期病院勤務の視点から） チーム医療での退院を目指すにはどうすべきか						
9・10	①ニードについて②摂食嚥下						
11・12	①訪問リハ②認知症						
13・14	環境改善						
15・16	理学療法士に求められる能力						
【成績評価方法】							
①レポート課題 8 回のレポート提出（講義欠席の場合は資料確認の上、レポートの提出は可能であるが減点対象となる）							
※素点が 6 割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
資料配布							

【科目名】						平成 31 年度	
地域サービス技術論							
分野	専門	配当年次	3 年	開講期間	前期	単位数	1
担当	旦 尚敏	時間数	30	回数	15	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
地域リハビリテーションにおいて理学療法士の関連領域である作業療法や言語療法、社会ソーシャルワーク、栄養学などの基本的知識を学習する。							
①リハビリテーション医療にかかる画像検査について説明できる							
②リハビリテーション医療にかかる生理検査について説明できる							
③リハビリテーション医療にかかる一般的な薬物療法について説明できる							
④リハビリテーション栄養について説明できる							
回数	講義内容						備考
1	レントゲンの見方（一般）、X 線発生 の原理、骨折の基本事項、X 線写真の見方						
2	レントゲンの見方（CT）、原理、症例、解剖図						
3・4 5・6	足部の運動学と歩行分析、生活における歩行、足部の機能解剖と評価、歩行分析 足底板による歩行の変化						
7	MRI の装置の特徴と見方、原理、臨床、安全教育ビデオ						
8・9	介護保険・地域包括支援について						
10	訪問看護について						
11・12	言語聴覚概論、言語聴覚士が扱う障害、コミュニケーション障害者への対応 嚥下障害と食べ方の工夫について、ICF について						
13・14 15・16	ICF について、概念、用語の説明、活用法、ICF の活用と理学療法についての説明						
17	血液検査データの見方、AST、ALT、LDH、CPK、CRP など 超音波検査について、心臓超音波検査の症例						
18	心電図について、心電図の原理、重篤な不整脈、心電図の症例						
19・20	薬学						
21・22	栄養学						
【成績評価方法】							
①出席点							
※素点が 6 割以上で単位修得							
【使用教科書】							
書名				著者名		発行所	
資料配布							

【科目名】

臨床実習Ⅰ

平成31年度

分野	専門	配当年次	2年	開講期間	前後期	単位数	4
担当	複数教員	時間数	180	回数		授業方法	実験・実習・実技

授業の概要、到達目標

臨床実習学習では、学内教育（基礎、専門基礎、専門）を基礎として、病院・施設の臨床指導者（SV）の指導・管理のもとで、多種多様な疾患や障害を有する対象者に対して、情報収集、検査・測定等を行って評価し、この評価に基づいて治療計画を立案、そして治療、訓練を行う。

- ①検査測定項目・情報収集項目の抽出・取捨選択の理由を説明できる
- ②検査測定結果の関連性について説明できる
- ③対象者が抱える課題を抽出し、その抽出理由について説明できる
- ④実施内容を記録に残すことができる
- ⑤カンファレンスでの症例提示内容について説明できる

回数	講義内容
期間	①評価実習Ⅰ 平成31年7月8日～7月26日 ②評価実習Ⅱ 平成32年1月20日～2月7日
実習目的	①評価実習Ⅰ 対象者に対する検査測定技術の実践的能力を身につけること及び理学療法評価の流れを経験することを主たる目的とする。 ②評価実習Ⅱ 病院・施設等の理学療法部門において、臨床指導者の指導を仰ぎながら、症例を通して、情報収集から理学療法プログラム実施計画の作成にいたる理学療法評価についての実践的基礎能力を身につけることを主な目的とする。
実習目標	①評価実習Ⅰ 検査測定の専門知識および専門技術を整理する。学内で習得した検査・測定の知識や技術を臨床場面で実践体験する。理学療法に関わる検査・測定の適切性を高める。収集した情報および個々の検査結果をもとにして対象者の障がい像を捉え、主要な問題を把握する。 ②評価実習Ⅱ 臨床評価実習では指導のもと、検査測定、治療・訓練の経験を通して、それらの目的や対象者の疾病と障害を理解することを目標としている。 また可能な限り同一の症例で(1)情報収集(2)面接(3)検査・測定(4)統合と解釈(5)問題点抽出(6)目標設定(7)治療プログラム作成などを実践する。

【成績評価方法】

①実習成果表、②実習課題記録表、③レジメ ④実習終了後の学内報告会、⑤症例ポートフォリオ

評価実習Ⅰ：上記①～④を総括し評価を行う。

評価実習Ⅱ：上記①～⑤を総括し評価を行う。

※欠席日数が出席義務日数の1割を超える場合は評価を受ける資格を失う。

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
全ての科目の教科書および参考図書		

【科目名】

臨床実習Ⅱ

平成31年度

分野	専門	配当年次	3年	開講期間	前後期	単位数	14
担当	全教員	時間数	630	回数		授業方法	実験・実習・実技

授業の概要、到達目標

臨床実習学習では、学内教育（基礎、専門基礎、専門）を基礎として、病院・施設の臨床指導者（SV）の指導・管理のもとで、多種多様な疾患や障害を有する対象者に対して、情報収集、検査・測定等を行って評価し、この評価に基づいて治療計画を立案、そして治療、訓練を行う。

- ①対象者の治療目標を設定し、その設定根拠について説明できる
- ②理学療法プログラムを選択し、その根拠について説明できる
- ③理学療法の即時効果を確認し、その内容について説明できる
- ④実施内容を記録に残すことができる
- ⑤カンファレンスでの症例提示内容について説明できる

回数	講義内容
期間	①臨床総合実習Ⅰ期 平成31年4月8日～5月31日 ②臨床総合実習Ⅲ期 令和元年8月19日～10月11日
実習目的	臨床実習Ⅱ（臨床総合実習）は、理学療法教育の最終段階として位置するものであり、理学療法業務の総合的な臨床学習を行うことを通して、学内外で習得した知識、技術を応用し実践することを主な目的とする。またリハビリテーションチームの一員として、理学療法士としての役割を自覚し、組織管理、運営機構について認識するとともに、医療専門職としての責任ある態度、行動がとれるようになることを目的とする。
実習目標	I. 基礎的態度 (1) 医療専門職従事者としての人格・知識・技術の向上するように、常に努力する。 (2) 報告・連絡・相談の実践、課題提出の厳守に努める。 II. 評価 (1) 各疾患（障害）別の評価過程が実践できること。 III. 理学療法の治療計画 (1) 予後予測をし、問題点や目標に対応した治療プログラムが設定できること。 (2) 治療目的に対して有効な治療の選択（手段、順序、時間、回数など）ができ、理論的裏付けができること。 IV. 理学療法の実施と再評価 (1) 立案したプログラムに沿って、治療が実施できる (2) 治療経過による変化が認識できること。 (3) 再評価を実施し、治療効果の判定、治療目標、治療プログラム等の再検討や修正ができること。 ※Ⅰ期はⅠ～Ⅳ-(1)の範囲、Ⅲ期はⅠ～Ⅳ (3)の範囲が目標となる。

【成績評価方法】

①実習成果表、②実習課題記録表、③実習終了後の学内報告会、④症例ポートフォリオ、⑤レジメ
①～⑤を総括し評価を行う。Ⅰ期・Ⅲ期ともに60点以上で単位修得
※遅刻・早退は2回をもって1日の欠席とし、欠席日数が4日を超える場合（5日以上）は評価を受ける資格を失う。

【使用教科書】

書名	著者名	発行所
全ての科目の教科書および参考図書		

【科目名】卒業課題						平成 31 年度	
分野	専門	配当年次	3 年	開講期間	後期	単位数	1
担当	複数教員	時間数	15	回数	8	授業方法	講義・演習
授業の概要、到達目標							
卒後における研究活動の一助、及び学内の履修の総括として、グループワーク形式によって学生任意で設定したテーマに従い課題を遂行する。また、履修した知識を整理し、国家試験に対する対策として卒業試験を課している。							
①学内履修の総括として理学療法にかかる一般的知識について説明できる							
②学内履修の総括として理学療法にかかる医学的知識について説明できる							
回数	講義内容			回数	講義内容		
1・2	呼吸器について、解剖・生理・運動・病理			21	人間発達学・小児科学		
3・4	泌尿器について、解剖・生理・運動・病理			22	臨床心理学		
5・6	循環器について、解剖・生理・運動・病理			23・24	脳卒中		
7・8	消化器について、解剖・生理・運動・病理			25	装具学		
9・10	内分泌について、解剖・生理・運動・病理			26・27	内科学 B(呼吸)		
11・12	免疫について、解剖・生理・運動・病理			28・29	整形外科学		
13	物理療法学			30・31	神経筋疾患		
14	精神医学			32	評価学①		
15	物理療法学			33	評価学②		
16	内科学 A(代謝)			34・35	呼吸器理学療法		
17・18	義肢学			36・37	整形外科学		
19・20	循環器理学療法			38・39	脊髄損傷		

【成績評価方法】
①筆記試験 ※第 1・2 回:専門 50 点以上・共通 50 点以上、かつ合計 120 点以上・両試験で合格した場合単位修得。 ※但し、第 1 回試験に不合格者は、第 2 回試験:専門 60 点以上・共通 60 点以上・合計 130 点以上で単位修得。 ※再試験:専門 60 点以上・共通 60 点以上・合計 120 点以上で単位修得。

【使用教科書】		
書名	著者名	発行所
資料配布		

学校法人栗岡学園 奈良リハビリテーション専門学校

学校関係者評価委員会 会議資料

【令和2年2月25日実施】

平成30年度自己点検・自己評価（平成30年4月1日～平成31年3月31日）による

1 教 育

項 目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	評価委員会からの指摘等
1. カリキュラムは貴校の教育目標をどのように反映していますか	基本は日本理学療法士協会が示すコアカリキュラムに準拠するように努めているが、人間性豊かな人材育成の取り組みと医療専門職の養成を目的としているため、技術や特殊な手技に関するカリキュラムも充実している。	少人数に対し手厚い技術指導ができることで手技に関しては実習施設や就職先で一定の評価をいただいている。一方、学生の資質が多様化しており本校が掲げる人間性豊かな人材の育成に到達できていない状態もあります。	5 ④ 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分	実技講義の手厚い指導は現状を維持しつつ、未整備科目への対応や全体的な調整を進めていきたい。また、新たな理学療法の領域についても盛り込んでいった教育目標を検討する。	
2. カリキュラムに卒後の職場のニーズをどのように反映していますか	カリキュラムの準拠に重点を置いているが、現行カリキュラムの職場ニーズに即した見直しが必要である。	卒後研修の形で対応できるよう取り組みを進めている。また、将来、職場で求められるニーズを把握し学内講義や日々の指導の中で反映できるよう取り組んでいる。	5 ④ 3 2 1	就職先は病院が中心だが、今後の職域拡大に対しての対応も必要となってくる。2020年度の指定規則の改定にあるよう、今後は地域に貢献できる人材育成も目標としてカリキュラムを作成していく。	地域に貢献できる取り組みが必要である。 この取り組みは更に認知度を上げるためでもある。
3. 授業科目の学年進行や時間配分は適切ですか	各学年とも基本的に授業構成は適切に配置されている。しかし、各学年で臨床実習に行く時期や学校行事の都合で全学年一定の進行とはいえないが、可能な限り学生が効率良く学ぶことができるよう取り組んでいます。	できるだけ学生が効率的に学習できるよう努力している。授業科目外の活動（補習など）にも取り組んでいる。学習時間について、学校内外のバランスを考慮したものとなっている。	5 ④ 3 2 1	授業科目外の活動（補習など）については、できる限り就学時間の中で行えるように努めている。 一部の科目について、教授内容と事業時間を再検討する。	

4. シラバス（授業要項）を作成していますか（内容は適切ですか）	新たな書式で学生への講義予定の提示と評定方法、使用教科書を掲載し全科目作成している。	シラバスがあることで、学生が学年を通じて学ぶ講義内容を確認することができる。 シラバスの作成は前・後期日程開始の前に行っているが、非常勤講師分の講義内容の反映が直前になることがある。	⑤ 4 3 2 1	講師依頼の際、十分な期間を設け依頼することでシラバスの反映に間に合うように取り組んでいく。 今年度は新たに評定方法の記載も加え、学生がより有効に使用できるようにしている。	
5. カリキュラムの見直し体制はどのようにしていますか	指定規則の改定に向け、カリキュラムに関しては全教員で検討している。また、臨床実習に関する CBT、OSCE、CCS に関しては各担当を決め、それぞれ検討した内容を全体会議の場で決定している。	各担当での作業を順次進めているが、全体会議で決定していくのには時間がかかっている。	5 4 ③ 2 1	各担当で進めた内容を全体会議前に資料としてある程度紙面で示し、一読したうえで全体会議に臨み、あらかじめ質問事項や確認事項を整理した上で全体会議に臨み円滑に会議が進められるように対応していく。	
6. テキストや教材をどのような基準で採用していますか	国家試験や臨床実習に対応できるように、常に教員の連携のもと学生に必要なものを考え採用している。さらに、教科書に関しては各出版社から様々な内容や価格のものが出版されているので、安価で内容の充実したものを選択するようにしている。	学生が講義を受けるにあたって、最適な教材、教科書が用意されている。また、講義にとどまらず、国家試験対策や臨床実習でも役立っている。 新書が数多く出版される中、授業に最適なものを使用できるように常に検討している。	⑤ 4 3 2 1	学生へのアンケートにおいて、教科書の使用に関する意見が多いので、今後も継続的に教材や講義資料の吟味を行うとともに、特に使用する教科書について学生への説明を十分行っていく。	学校で教示したい内容のテキストを吟味し、外来講師に適切に提示したほうが望ましい。 また理学療法において、体系的なシリーズでのテキストを導入したほうが理解が深まるのではないかと提言があった。

7. 目標とする教育効果を踏まえて適切に成績評価を行っていますか	各講義の中で教育目標と評定方法をシラバスに示したうえで、講義を行い、講義終了時に適宜試験を実施している。実習に関しては、実習課題と成果表をもとに評価している。	各試験の中で教育目標とする内容に一定の教育効果があったかどうか適正に判断している。実習に関しては、内部評価をするための評価内容の整備を進めている。次年度から試行できるよう項目等実用化に向けて検討している。	⑤ 4 3 2 1	各科目の目標設定を明確にし、より適正な成績評価を行うようにしていく。今後、客観的評価の必要性も検討していく。また、教育評価を高める講義内容をより意識したうえで取り組んでいく。さらに、実習に関しては、学内の評価項目や評価基準の見返しを検討する。	
8. 学生の理解度に応じて授業を柔軟に進めていますか	学生の理解度に合せた講義を柔軟に進めている。講義の中で理解度の確認を表出させることで行っている。表出には小テストや口頭試問、場合により実技を用いている。	様々な方法で表出させることで理解できている箇所とできていない箇所の確認はできるが、どの方法を用いても時間がかかる。時間の限られた講義の中でどのように確認していくか課題となっている。	⑤ 4 3 2 1	教員は講義レベルを維持しつつ、学生の理解度が増す講義形式（参加型学習等）の検討を続けていく。併せて、学生に対しては講義の理解が得られるよう予習の勧めや勉強方法の指導も行っていく。	
9. 学生の学力不足を補うための教育をとくに実施していますか	講義時間以外の時間外学習で補っている。全体的に課題を与え理解が進みにくい学生には個別の対応を実施している。	計画的な学力不足への対応は、教員による管理が必要な場合が多い。	⑤ 4 3 2 1	日々、学生個人の特性の把握に努め、それぞれに応じた課題の解決を図っていく。	
10. マナー（喫煙指導などを含む）やしつけの教育や指導を行っていますか	入学時にビジネスマナー研修を行い基本的な接遇等の教育を行っている。また学校周辺および校内全面禁煙の指導を徹底している。	医療人として身に付けておく社会性は多岐にわたっており、学校内での指導は十分ではない部分がある。	⑤ 4 3 2 1	SNSに関するリテラシーについては、教育内容の検討を要する。特にしつけに含有される部分は、どのようにすべきか検討を要する。	

11. 教育技術（教育方法） の研修・研究を実施していますか	学校内、法人内で特に対応している研修会はなく、各個人が自己研鑽として研修会に参加している。	学生指導や授業準備などの業務に追われているため、研究活動への時間をかけることがなかなかできず、また研修の参加も計画的に行われているとは言えない。	5 4 ③ 2 1	教員7人中6人は長期の教員研修会を受講済であるが、その後に受講する研修会への参加など、情報収集に努め、教職員全体のスキルアップを行っていく。	
12. 学生による授業評価を実施し教育改善に反映していますか	半期ごとに学生による授業アンケートを実施し、まとめている。その結果を教員、講師に伝達している。また、声の大きさ、板書については必要があればその都度フィードバックしている。	授業アンケートの結果は伝わっているが、どのような改善がされているかは十分に把握できていない。	5 4 ③ 2 1	今後もアンケートは継続し、さらに教員の能力開発の一環として専任教員、非常勤講師ともにアンケート結果をフィードバックし、講義方法等を見直す機会を作っていく。	さらに具体的なものをとってはどうかとの指摘。場合によっては記名式も有効ではないか。

2 施設・設備

項 目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	評価委員会からの指摘等
1. 教室の数や広さ、 附帯設備は適切ですか	学生人数に対し教室、治療ベッド、実技室等は適切に設置されている。	学生への個別対応が増えてきており、教室が不足する場合も出てきている。	5 ④ 3 2 1	その都度、補修個所の調査・点検・改善を継続して行い、良好な学習環境を提供していく。	委員長より、チョークを使用する教室を減らしては？とのアドバイスがあった。
2. 図書室を設け蔵書を適切に揃えていますか（有効に活用されていますか）	図書室の開館状況、管理、利用状況は適切に行われている。学生の活用方法としては、卒業研究、臨床実習、講義の補助手段等である。	医療系雑誌は多数取り揃えており、最新の情報を学べる状態である。最新献本が教務室奥のキャビネットに並んでいるため、学生が手に取って閲覧しにくい状況がある。	5 ④ 3 2 1	医療系雑誌の取り揃えについて、学生だけではなく、教員、卒業生が活用できるように購入計画を立てる。 また、教務室のキャビネットの位置を検討し、学生が新書の閲覧をしやすいようにしていきたい。	

3. 実習・実験室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	実習室や実験室の数や広さは適切である。実習室で使用するタオルは使用ごとにクリーニングをして清潔を保つとともに、劣化や損傷の激しいものは順次新しいものに変えている。	最新の機材に関しては授業や研究で積極的に活用されている。開校当初から使われている機材に関しては、老朽化がみられるものもある。	⑤ 4 3 2 1	その都度、補修個所の調査・点検・改善を継続して行っていく。	
4. 最新機能を備えた視聴覚機器や情報機器は足りていますか（有効に活用していますか）	学内に Wi-Fi ルーターが設置されており、学生は facebook 経由でのインターネット接続が可能となっている。	コンピュータ室 PC に LAN を再構築し、CBT 等の最新学習システムを取り入れることが可能となった。	5 ④ 3 2 1	図書室内の管理用 PC のバージョンが古いので新しく導入を検討する。授業等において、学生のスマホ等による検索ができるよう環境整備を検討する。	
5. ニーズに応じた学生寮を保有していますか（有効に活用されていますか）	法人で共通の学生寮を保有しているが、遠方からの入学者はさらに近くのワンルームマンションを選ぶ傾向にある。	法人の学生寮は希望者が多く有効に活用されている。本校の近くに学生寮があれば活用できると思われるが、距離があるため活用できていない。	5 ④ 3 2 1	学生が快適で安心安全に学生生活を送れるように、今後も学校として近隣の賃貸マンション情報等の収集に努める。	
6. 体育館や運動場などを保有していますか（有効に活用されていますか）	学内に体育館は保有しないが、近隣にグラウンドを保有している。体育の授業では関連校の体育館を利用している。	グラウンドについては使用頻度が低いが、地元のイベントやスポーツ活動にも有効に利用してもらっている。	⑤ 4 3 2 1	体育館の利用について、夏季期間は館内温度が非常に高くなり、熱中症になることが懸念されるため、空調の改善を検討する。	

3 学生サービス

項 目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	評価委員会からの指摘等
1. クラス担任制をとり修学に問題のある学生に対して適切な対応を行っていますか	二人担任制をとっており、就学に問題のある学生に対しては、まずクラス担任で対応している。それ以上の対応が必要となれば、担任以外のサポートも可能である。	クラス担任で速やかに対応できているが、対応するものが限定されていること、対応する問題が複座化していることで負担が大きくなっている。	5 (4) 3 2 1	情報共有を密にして、学校全体として対応ができる体制を整える。	
2. 学生に対してカウンセリング（心理相談）を行っていますか	学生の状態や悩みに応じて臨床心理士によるカウンセリングを行っている。	完全に学生のプライバシーが守られており、希望者は気軽に利用できている。	(5) 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	現時点ではこの体制で問題はないと考えている。	今後は実習中の学生も含めた新しい取り組みを考えてみるよう提言があった。
3. 教室以外に休憩スペースが適当に置かれていますか	学生ラウンジや、ロビーで各々が適切に休憩を取れる状態である。	本来の休憩スペースと、そうでない場所の区切りが明確でなくなりつつある。	5 4 (3) 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	現状に合わせたルールづくりを検討する。	
4. 食事場所や売店などのスペースが設けられていますか	売店は設置されていないが学生専用のラウンジがあり、昼食やその他休憩時間、自習等で利用されている。	食事場所として、教室やラウンジを利用しており、状況によっては他の教室での食事も可としている。校舎のスペースの問題、近隣にコンビニ等があることで売店の設置予定は特にない。	(5) 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	現時点ではこの体制で問題はないと考えている。	
5. 学校独自に奨学金や特待生制度を行っていますか	学校独自の奨学金及び特待生制度はないが、留年者に対し継続的な学習を促す目的で、納付金を半額にする特別学費支援制度を設けている。	特別学費支援制度はほとんどの留年者が利用しており、学生の学費負担軽減に寄与するとともに適正に運用できている。	5 (4) 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分	特待生制度はより学力の高い学生の確保に有効か調査検討する。	

6. その他			5 十 分	4 ←	3 ふ つ う	2 →	1 不 十 分		
--------	--	--	-------------	--------	------------------	--------	------------------	--	--

4 教育面などでの特筆すべき取り組み(自由記入)

※学内においてこれまで記入したこと以外に、教育、施設・設備、学生サービス面での特筆すべき取り組みがあれば記入ください。

教職員が10名という本校では、職場で教育に関する研修会が少ない。個別では研修会に行き研鑽を積んでいるが職員全体で校内研修会を持つ必要があると考える。授業力向上のために学園全体で機会を持ち取り組むのも一つの方法である。

学生数の減少で入学者の現実問題として、学力の低下、学費の未納など切実である。これらを解決し、少しでも向上させるための方法や努力を検討していく事が肝要かと思われる。個別指導は従来通り入学時から取り組んでいるので工夫しながら継続する。学費については、奨学金や学園独自の制度等さらに充実していくことも考えられる。

評価委員会からの指摘事項等

宮野委員の勤務されている学園においては、何よりも渉外活動を第一に教員に徹底している。教員が率先して中学校等への訪問や出前授業等10年にわたって精力的に活動する取り組みを続けており、その他自校でのスポーツ大会の開催、お笑い観劇等を地域への貢献事業としても実施している。これらの活動は学園の認知度を上げるためにも必要であり、入学生の確保はこの辺りの活動が不可欠であるとアドバイスをいただいた。

以上